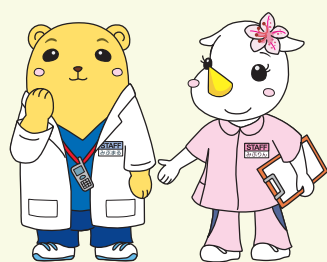


京都市立病院 診療科のご案内

2023



みぶまる みぶりん

京都市立病院公式キャラクター



— 京都市立病院機構理念 —

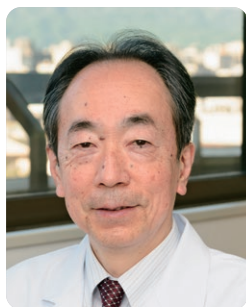
京都市立病院機構は

- 市民のいのちと健康を守ります
- 患者中心の最適な医療を提供します
- 地域と一体となって
健康長寿のまちづくりに貢献します

京都市立病院憲章

- 1 質の高い安全な医療を提供するとともに、地域の医療水準の向上に貢献します。
 - 2 患者の権利と尊厳を尊重し、心のこもった医療を提供します。
 - 3 救急や災害時における地域に必要な医療を提供するとともに、地域住民の健康の維持・増進に貢献します。
 - 4 病院運営に参画する事業者等とのパートナーシップを強め、健全な病院経営に努めます。
 - 5 職員の育成に努め、職員が自信と誇りを持ち、全力で医療に従事できる職場環境を作ります。
-

院長挨拶



京都市立病院 院長
黒田 啓史

平素は病病連携、病診連携に多大なご協力を賜り感謝申し上げます。

今年度の広報誌「診療科のご案内」をお届けいたします。診療科毎のスタッフの紹介、診療科の特色、診療内容、得意とする分野、地域の医療機関の先生方へのメッセージ等が盛り込まれていますが、当院の診療科の特徴をより深く知っていただき、皆さまとの連携をさらに密にしていきたいと考えていますので、参考にしていただければ幸いです。

この3年間、感染症法上2類相当として扱われてきた新型コロナウイルス感染症ですが、5月8日から5類に変更されました。これにより、マスクや手指消毒などの感染対策が緩和され、中止されていた各地のイベントも再開されるようになりました。また、観光地では外国からの観光客も多数見られるようになりコロナ前の状態に戻りつつあります。しかし、分類が変更されても新型コロナウイルスの感染力が変わるわけではありませんので、私たち医療に携わる者としては、まだまだ油断はできない状況にあると、職員一同気持ちを引き締めています。当院では今まで累計で1300名近い新型コロナウイルス感染症の入院患者を受け入れてきましたが、今後も第二種感染症指定医療機関としての役割を果たしていきます。

もちろん、新型コロナ感染症以外の一般診療についても、常に医療の質の向上を目指し、患者さんの気持ちに寄り添った医療を提供していきたいと考えていますので、地域の皆さまにおかれましては今後益々のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和5年 7月

地域連携室からのごあいさつ



地域連携室 室長
島 正 巳

平素は地域の医療機関、福祉施設の皆様からのご高配いただき、誠にありがとうございます。

京都市立病院の患者支援センター地域連携室から、この「診療科のご案内2023」をお届けします。地域の医療機関・福祉施設の皆様と当院の各診療科との間で円滑かつ綿密な連携を促進、患者さんを中心にした情報交換や協力関係の構築のためのものです。また、当院のホームページも充実させておりますので、併せてご覧ください。

地域の医療機関や福祉施設の皆様へ、当院各診療科が専門的に取り組んでいる領域について、簡潔にアピールポイントやメッセージを掲載しています。ご参考いただき、急性期や緊急の高度な医療を要する患者さんのご相談やご紹介を、ぜひともよろしくお願い申し上げます。

当院では緊急や専門的な診療相談のための専用電話を設置しております。小児科、腎臓内科、整形外科、呼吸器外科に加え、今年度より脳神経内科、産婦人科も新たに開設いたしました。地域の医療機関から直接、各科の担当医師にご相談いただけます。

紹介予約や検査の依頼について、各診療科の専門外来や精密画像検査予約の手順・方法を掲載しています。

一方で、回復期や慢性期の患者さんの診療について、地域の医療機関や福祉施設との連携を重視し、適切なタイミングでの情報交換や相談を推進してまいります。

地域連携の一環として、「地域医療フォーラム」や、「市民公開講座」など定期的な意見交換会や勉強会の開催を予定しております。地域の医療機関・福祉施設の代表の方々にぜひご参加いただき情報共有や意見交換を行い、地域の医療・福祉の発展に寄与できれば幸いです。ご案内については、各施設との電子メールでの交流の促進に取り組んでおります。未登録の施設におかれましては、当院地域連携室の代表メールアドレス(renkei@kch-org.jp)へのメール送信をよろしくお願いいたします。

また、以前よりお電話でのご連絡が混み合い、つながりにくい状況があったことを深くお詫び申し上げます。そのために、電話交換機の刷新・診療科直通相談電話の増設や、地域連携室の委託業務の直営化などさらなる改善策に取り組んでおります。

ご不明な点やご相談事などございましたら、いつでもお気軽にお問い合わせください。地域連携室のスタッフ一同、心より対応させていただきます。

引き続き、地域の医療機関・福祉施設の皆様との連携を通じて、患者さんのための質の高い医療・ケアを提供してまいります。今後ともご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

令和5年 7月

紹介患者様 事前予約ご利用の手引き

CONTENTS

(1) 診療科外来	2
紹介患者様事前予約申込FAX用紙	3
(2) 検 査	4
検査予約申込書兼診療情報提供書	5
PET-CT 検査予約申込兼診療情報提供書	6
外来担当医表	7
(3) 栄養相談	8
栄養指導指示書	9
(4) フットケア外来	10
フットケア外来指示書	11

紹介患者様診療・検査事前予約ご利用にあたって

京都市立病院では、患者様に待ち時間を短く、円滑に診療・検査を受けていただけるよう病院・診療所の先生方から事前予約をお受けしております。

事前予約のご利用方法については、本文をご参照ください。また、紹介患者様事前予約申込FAX用紙は、京都市立病院のホームページ <https://www.kch-org.jp/medical/chiikirenkei> からダウンロードできます。事前予約FAX用紙に必要事項をご記入のうえ、受付時間に **FAX 075-311-9862** へ送信していただければ予約ができます。ぜひ、ご利用くださいますようお願い申し上げます。

なお、事前予約に関するお問合せは、**専用電話 (地域連携室直通) 075-311-6348** をご利用ください。

地方独立行政法人京都市立病院機構 京都市立病院 地域連携室

TEL (075) 311-5311 (内線番号2114)

FAX (075) 311-9862 (専用)

事前予約医療機関専用電話 (地域連携室直通)

TEL (075) 311-6348

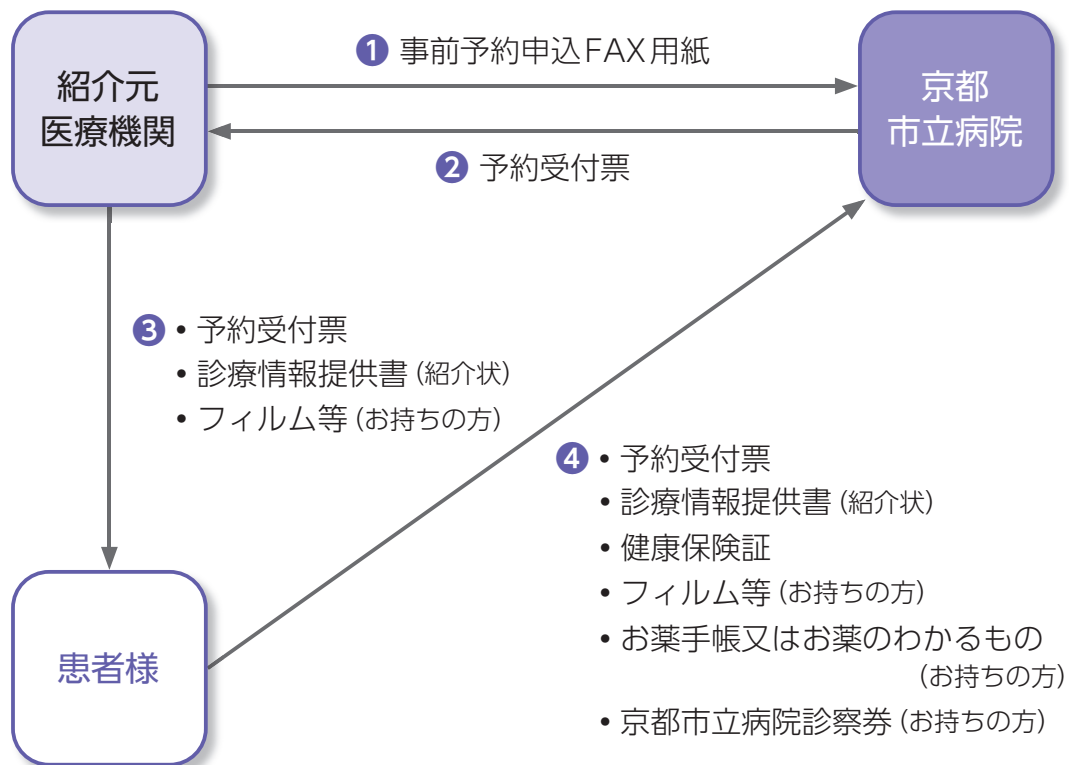
予約受付時間 土曜・日曜・祝日を除く

平日のみ 8:30～19:00

(木曜日は17:00まで)

FAXは24時間お受けしています。

(1) 診療科外来



① 「事前予約申込FAX用紙」に必要事項を記入し、地域連携室までFAX送信してください。

② 直ちに予約をお取りし、「予約受付票」をFAXで返信致します。
ただし、受付時間外のFAXについては、翌営業日の朝にご連絡致します。

③ 患者様に以下をお渡しください。

- 予約受付票
- 診療情報提供書(紹介状)
- フィルム等(お持ちの方)

④ 患者様は来院時に以下をお持ちください。

- 予約受付票
- 診療情報提供書(紹介状)
- 健康保険証
- フィルム等(お持ちの方)
- お薬手帳又はお薬のわかるもの(お持ちの方)
- 京都市立病院診察券(お持ちの方)

* 患者様が受診されましたら、受診日当日に受診報告書をFAX送信致します。

* 診察担当医師から、診療情報提供書を郵送又は患者様に手渡し致します。

* 「紹介患者様事前予約申込FAX用紙」は京都市立病院のホームページからダウンロードできます。
(<https://www.kch-org.jp/medical/chiikirenkei>)

紹介患者様事前予約申込FAX用紙

年 月 日

送信先▶京都市立病院 地域連携室 FAX (075) 311-9862(専用)

受付時間▶平日のみ／8:30～19:00(木曜日は17:00まで)
事前予約医療機関専用電話 TEL (075) 311-6348

▶受診希望日

第1希望	月	日()
第2希望	月	日()
第3希望	月	日()
☐ 希望なし		

▶紹介元医療機関

所在地
名 称
診療科
医師名
TEL
FAX

▶受診予約

☐ 総合内科	☐ 膠原病内科	☐ 呼吸器内科	☐ 消化器内科	☐ 腫瘍内科	☐ 循環器内科	☐ 腎臓内科	☐ 脳神経内科	☐ 血液内科	☐ 内分泌内科	☐ 糖尿病代謝内科	☐ 感染症科	☐ 呼吸器外科	☐ 小児科	☐ 小児外科	☐ 乳腺外科	☐ 外科	☐ 整形外科	☐ 脳神経外科	☐ 皮膚科	☐ 形成外科	☐ 泌尿器科	☐ 産婦人科	☐ 眼科	☐ 耳鼻いんこう科	☐ 精神神経科	☐ 歯科口腔外科	☐ 放射線治療科	☐ 緩和ケア科	☐ フットケア	☐ 栄養相談
希望医師▶ ☐ 有 → 医師名 _____ 【 ☐ 予約不可の場合は他の医師でも可】 ☐ 無																														

▶患者情報

※市立病院のIDをお持ちの方は患者番号を記入してください。

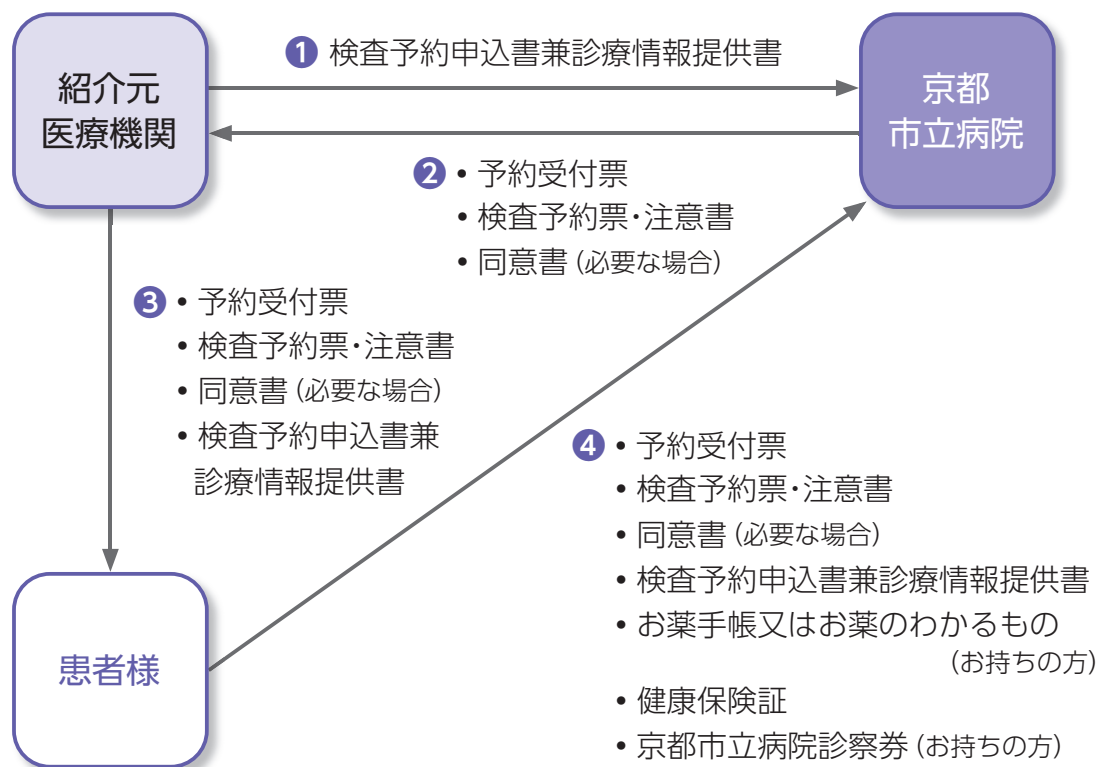
市立病院・京北病院 受診歴		☐ 有 ☐ 無 ☐ 不明	市立病院・京北病院 患者番号			
ふりがな			旧姓			
氏 名			性別	男・女	生年月日	明・大・昭・平・令 年 月 日 (歳)
住 所	〒 -		電話番号() -			
【ご紹介目的、病名、症状等をご記入ください】 ☐ 診療情報提供書を添付の場合はチェックしてください。						
入院中に外来受診される場合 ▶ ☐ 入院中の受診 パノラマ・フィルムの持参 ▶ ☐ 有 ☐ 無 妊娠中の方 ▶ 母子手帳【 ☐ 有 ☐ 無】 初期検査【 ☐ 済 ☐ 未】 出産予定日【 月 日】						

▶保険情報

※保険証の写しをFAXしていただければ記入は不要です。

被保険者証	保 険 者 番 号				公費負担医療受給者証	負担者番号			
	記 号・番 号					受給者番号			
	被保険者氏名					有効期限		年 月 日～ 年 月 日	
	続柄	本人・家族	負担割合	1割・2割・3割					

(2) 検 査



① 「検査予約申込書兼診療情報提供書」に必要事項を記入し、地域連携室までFAX送信してください。

② 直ちに予約をお取りし、「予約受付票」、各検査の「検査予約票・注意書」、造影剤の「同意書」を一緒にFAXで返信致します。

ただし、受付時間外のFAXについては、翌営業日の朝にご連絡致します。

③ 患者様に以下をお渡しください。

- 予約受付票
- 検査予約票・注意書
- 同意書 (必要な場合)
- 検査予約申込書兼診療情報提供書

④ 患者様は来院時に以下をお持ちください。

- 予約受付票
- 検査予約票・注意書
- 同意書 (必要な場合)
- 検査予約申込書兼診療情報提供書
- お薬手帳又はお薬のわかるもの (お持ちの方)
- 健康保険証
- 京都市立病院診察券 (お持ちの方)

* 患者様が受診されましたら、受診日当日に受診報告書をFAX送信致します。

* 診察担当医師から、診療情報提供書を郵送致します。

検査予約申込書兼診療情報提供書

年 月 日

送信先 京都市立病院 地域連携室 FAX (075) 311-9862(専用)

受付時間 平日のみ/8:30～19:00(木曜日は17:00まで)
事前予約医療機関専用電話 TEL (075) 311-6348

▶検査希望日

第1希望	月	日()
第2希望	月	日()
第3希望	月	日()
☐ 希望なし		

▶紹介元医療機関

所在地
名称
診療科
医師名
TEL
FAX

▶患者情報

※市立病院のIDをお持ちの方は患者番号をご記入ください。

市立病院・京北病院 受診歴	☐ 有 ☐ 無 ☐ 不明	市立病院・京北病院 患者番号	
ふりがな		旧姓	
氏名		性別	男・女
住所	〒 - 電話番号() -	生年月日	明・大・昭・平・令 年 月 日 (歳)
病名 (主訴)		既往歴 (家族歴)	
病状経過 治療経過 検査結果		現在の処方	
妊娠の可能性 ▶ ☐ 無 ☐ 有 ☐ 不明 入院中に検査受診される場合 ▶ ☐ 入院中			
ペースメーカー ▶ ☐ 無 ☐ 有 → 機種名()			
除細動器(ICD) ▶ ☐ 無 ☐ 有 → 機種名()			
着替え・移乗時の見守り、介助 ▶ ☐ 不要 ☐ 要 → 特記()			

▶保険情報

※保険証の写しをFAXしていただければ記入は不要です。

被保険者証	保険者番号		医療費負担 受給者証	負担者番号	
	記号・番号			受給者番号	
	被保険者氏名			有効期限	年 月 日～ 年 月 日
	続柄	本人・家族	負担割合	1割・2割・3割	

▶検査予約

※紹介状の宛先は空欄で結構です。

☐ CT	検査部位 ▶ ☐ 頭部 ☐ 頸部 ☐ 胸部 ☐ 腹部 ☐ 骨盤 ☐ その他() 造影希望 ▶ ☐ 有 ☐ 無 ☐ 一任 eGFR ▶ : (1ヶ月以内の数値、45未満は撮影不可) 画像データ ▶ ☐ CD-R希望 ☐ 不要 ※冠動脈CTは受診が必要なため、検査のみはお受けできません。
☐ MRI	検査部位 ▶ ☐ 頭部 ☐ 頸部 ☐ 胸部 ☐ 腹部 ☐ 骨盤 ☐ 四肢 ☐ MRCP ☐ 脊椎 ☐ その他() 造影希望 ▶ ☐ 有 ☐ 無 ☐ 一任 eGFR ▶ : (1ヶ月以内の数値、45未満は撮影不可) 画像データ ▶ ☐ CD-R希望 ☐ 不要 ※以下の事項について、確認してください。 ①人工内耳 ☐ 有 ☐ 無 ④刺青 ☐ 有 ☐ 無 ②心臓人工弁 ☐ 有 ☐ 無 ⑤体内金属(人工骨頭、関節、手術クリップ、義歯、ブリッジ etc) ☐ 有 ☐ 無 ③脳外科用クリップ ☐ 有 ☐ 無 ⑥1時間程度の静止 ☐ 可 ☐ 否
☐ RI	検査種別 ▶ ☐ 脳血流 ☐ DATSCAN ☐ 骨シンチ ☐ その他() 画像データ ▶ ☐ CD-R希望 ☐ 不要
☐ DPX(骨塩定量)	
☐ 胃カメラ	検査方法 ▶ ☐ 経口 ☐ 経鼻 ※以下の事項について、確認してください。 ①前回検査 ☐ 有【 ☐ 本院 ☐ 他院】 ☐ 無 ④グルカゴン ☐ 可 ☐ 不可 ②ブスコパン ☐ 可 ☐ 不可 ⑤抗凝固剤使用 ☐ 有 ☐ 無 ③キシロカインアレルギー ☐ 有 ☐ 無
☐ 超音波検査	☐ 心臓(小児除く) ☐ 腹部 ☐ 頸部 ☐ 血管【 ☐ 頸動脈 ☐ 下肢動脈 ☐ 下肢静脈 ☐ 腎動脈】
☐ 生理検査	☐ 運動負荷検査【 ☐ トレッドミル ☐ エルゴメーター】 ☐ 血圧脈波 ☐ ホルター心電図 ☐ 細胞外液量測定 ☐ 呼吸機能検査 ☐ 脳波(小児除く) ☐ 誘発脳波【 ☐ 体性感覚 ☐ 聴覚 ☐ 視覚】 ☐ 神経伝達速度

PET-CT検査予約申込書兼診療情報提供書

年 月 日

送信先 京都市立病院 地域連携室 FAX (075) 311-9862(専用)

受付時間 平日のみ/8:30~19:00(木曜日は17:00まで)
事前予約医療機関専用電話 TEL (075) 311-6348

検査希望日

第1希望	月	日	()
第2希望	月	日	()
第3希望	月	日	()
☐ 希望なし			

紹介元医療機関

所在地
名称
診療科
医師名
TEL
FAX

※新型コロナワクチン接種後1ヶ月以上間隔をあけて予約日を設定してください。
ご不明の点はPET検査室(内線5184)にお問合せください。

検査情報

臨床診断名			
検査目的	☐ 病期診断	☐ 転移・再発診断	☐ 原発巣検索
画像検査歴	☐ CT	☐ MRI	☐ US ☐ その他 ()
症状及び経過・腫瘍マーカーなどの他検査所見		☐ 入院中	◀入院中に検査受診される場合
既往歴・手術歴			
閉所恐怖症	☐ 無 ☐ 有	糖尿病	☐ 無 ☐ 有 空腹時血糖値(mg/dl)
妊娠の可能性	☐ 無 ☐ 有	ペースメーカー	☐ 無 ☐ 有 → 機種名()
30分以上の静止	☐ 可 ☐ 不可	移動方法	☐ 独歩 ☐ 車椅子 ☐ ストレッチャー
その他留意事項			

患者情報

※市立病院のIDをお持ちの方は患者番号をご記入ください。

市立病院・京北病院 受診歴	ふりがな	旧姓	性別	男・女	生年月日	明・大・昭・平・令 年 月 日 (歳)
☐ 有 ☐ 無 ☐ 不明						
市立病院・京北病院 患者番号						
住所	〒 電話番号()					

保険情報

※保険証の写しをFAXしていただければ記入は不要です。

被保険者証	保険者番号		公費負担医療受給者証	負担者番号	
	記号・番号			受給者番号	
	被保険者氏名			有効期限	
	続柄	本人・家族		負担割合	1割・2割・3割

京都市立病院 外来事前予約枠一覧(令和5年8月現在)

		月	火	水	木	金
		担当医	担当医	担当医	担当医(檜垣 聡)	担当医
総合内科		村上 孝作		田淵 裕也		
膠原病内科			平田 希美子	村上 高志	☆大津 修二	
放射線治療科		☆松尾 あきこ	中島 規雄	内藤 大督	太田 啓介	松永 晋作
循環器内科		☆伊藤 満(PM)	大庭 章史	☆宮原 裕子	松井 道志	足田 涼介
血液内科			中山 大輔			井上 雄太
感染症内科		元林 寛文	☆板谷 健太郎	岩本 伸紀	篠原 浩	谷口 昌史
腎臓内科		矢内 佑子	池田 紘幸	☆家原 典之	☆家原 典之(第1木除く)	富田 真弓
多発性嚢胞腎専門外来					富田 真弓(第1木曜)	
整形外科	金 永優(膝・股関節)	☆鹿江 寛(リウマチ)	清水 優(脊椎)	☆鹿江 寛(リウマチ)	竹本 充(脊椎)	
	奥村 朋央	竹本 充(脊椎)	間野 公介(リウマチ)	金 永優(膝・股関節)	清水 優(脊椎)	
泌尿器科		上山 裕樹	堤 尚史	☆清川 岳彦	奥村 朋央	松岡 崇志
緩和ケア科		担当医(PM)	担当医		担当医	
消化器内科	西方 誠	☆山下 靖英	☆桐島 寿彦	小畑 僚平	陶山 遥介	
		宮川 昌巳	高田 久	瀬古 彩		
腫瘍内科		☆桐島 寿彦		陶山 遥介		
がんゲノム		☆桐島 寿彦(PM)		中島 貴子		
外科	森 友彦	奥田 雄紀浩	☆松尾 宏一	上 和弘	玉置 信行	
		坂口 正純		秦 浩一郎		
小児外科			武田 昌克(PM)		武田 昌克(PM)	
静脈血栓症外来				担当医	☆山本 栄司	
乳腺外科	☆森口 熹生		☆森口 熹生	西村 祥子	末次 弘実	
			末次 弘実			
内分泌内科		中上 瑛理加	中上 瑛理加	☆小暮 彰典	☆小暮 彰典	
糖尿病・代謝内科	☆小暮 彰典	安威 徹也	☆小暮 彰典	木村 智紀	☆小暮 彰典	
	木村 智紀	芳村 奈央	木村 智紀	安威 徹也	安威 徹也	
耳鼻咽喉科	☆豊田 健一郎	担当医	村上 怜	☆豊田 健一郎	担当医	
	水田 康博		村上 太孝	村上 太孝		
産婦人科	初診	☆小芝 明美	高橋 裕司	大井 仁美	山本 櫻	谷 顯裕
	妊婦	大井 仁美	谷 顯裕	藤原 葉一郎	山本 浩之	☆小芝 明美
脳神経内科		三浦瑠莉/白波瀬勇人	大井由貴/菊谷明宏	☆中谷 嘉文	南山 素三雄	村井 智彦
脳神経外科		辻 敬一	☆地藤 純哉		辻 敬一	
皮膚科 (両枠とも午前)	☆竹中 秀也	奥沢 康太郎	沢田 広子	竹中 秀也	沢田 広子	
	奥沢 康太郎	沢田 広子	中村 健太郎	中村 健太郎	奥沢 康太郎	
形成外科		沼尻 敏明(PM)				沼尻 敏明(PM)
眼科	大久保 寛	☆鈴木 智	三木 岳	三木 岳	☆鈴木 智	
		中路 進之介	中路 進之介		三木 岳	
小児科	心臓・代謝・内分泌	天谷 英理子			天谷 英理子	
	血液・腫瘍・アレルギー	☆田村 真一(PM)			☆田村 真一	
小児一般	佐々木 真之	友安 千紘	矢野 未央	佐々木 真之	友安 千紘	
	矢野 未央			内藤 優樹		
神経		吉田 路子	吉田 路子	☆石田 宏之(血液)		
		松岡 太朗(PM)				
腎臓	中島 三花(夜尿なし)			西田 真佐志(第2週)		
	塩見 梢		塩見 梢			
新生児			＜要相談＞			
	夜尿症外来					
膠原病専門外来		☆石田 宏之(PM)				
	感染症					◎清水 恒広
呼吸器内科	小林 祐介	太田 登博	高田 直秀	☆小熊 毅	太田 登博	
	五十嵐 修太	吉岡 秀敏	小林 祐介	五十嵐 修太	高田 直秀	
呼吸器外科	☆宮原 亮	山添 正敏	吉岡 秀敏	担当医	河野 朋哉	
	村西 佑介(PM)					
歯科口腔外科	白井 陽子	白井 陽子	白井 陽子	白井 陽子		
	大西 ゆりあ	大西 ゆりあ	大西 ゆりあ	大西 ゆりあ		
精神神経科		担当医		担当医		

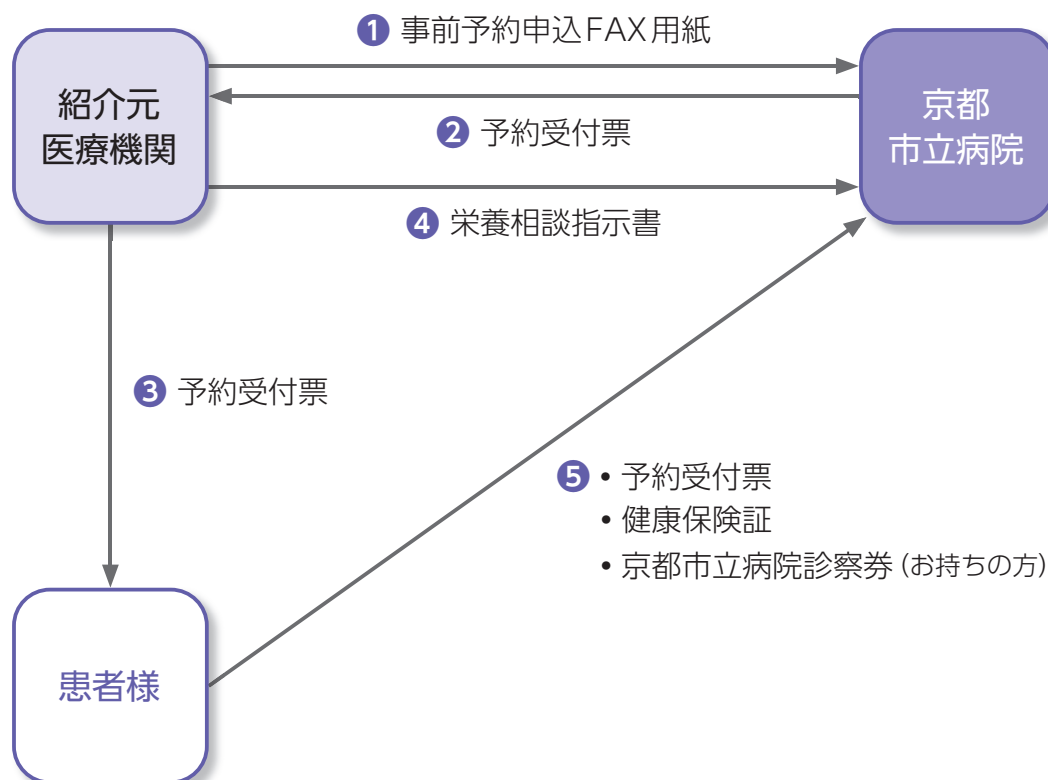
●専門外来(予約)

・アスベスト外来	…075-311-5311	(代表)	8:30~16:00
・女性総合外来	…075-311-5345	(専用・健診センター)	13:30~16:00
・男性専門外来	…075-311-6384	(専用・健診センター)	13:30~16:00
・セカンドオピニオン外来	…075-311-5430	(専用・健診センター)	13:30~16:00

(3) 栄養相談

栄養相談とは糖尿病・高度肥満の患者様の栄養相談を栄養科管理栄養士が実施しています。

なお、栄養相談は、京都市立病院指定の栄養相談指示書が必要です。予約日の2日前までに、栄養相談指示書にご記入いただき地域連携室へFAX送信してください。



① 「事前予約申込FAX用紙」に必要事項を記入し、地域連携室までFAX送信してください。

② 直ちに予約をお取りし、「予約受付票」をFAXで返信致します。
ただし、受付時間外のFAXについては、翌営業日の朝にご連絡致します。

③ 患者様に以下をお渡しください。
・ 予約受付票

④ 「栄養相談指示書」にご記入いただき、予約日の2日前までに地域連携室へFAX送信してください。原本の郵送は必要ありません。

⑤ 患者様は来院時に以下をお持ちください。
・ 予約受付票
・ 健康保険証
・ 京都市立病院診察券（お持ちの方）

* 患者様が受診されましたら、管理栄養士から栄養相談報告書を郵送致します。

栄養指導指示書

送信先：FAX 075-311-9862 (地域連携室)

事前予約医療機関専用電話 TEL 075-311-6348

※栄養指導予定日の2日前までにFAXでご送信ください。

紹介元

住 所	
医療機関名	
診 療 科	
医 師 名	
T E L	F A X

紹介患者様

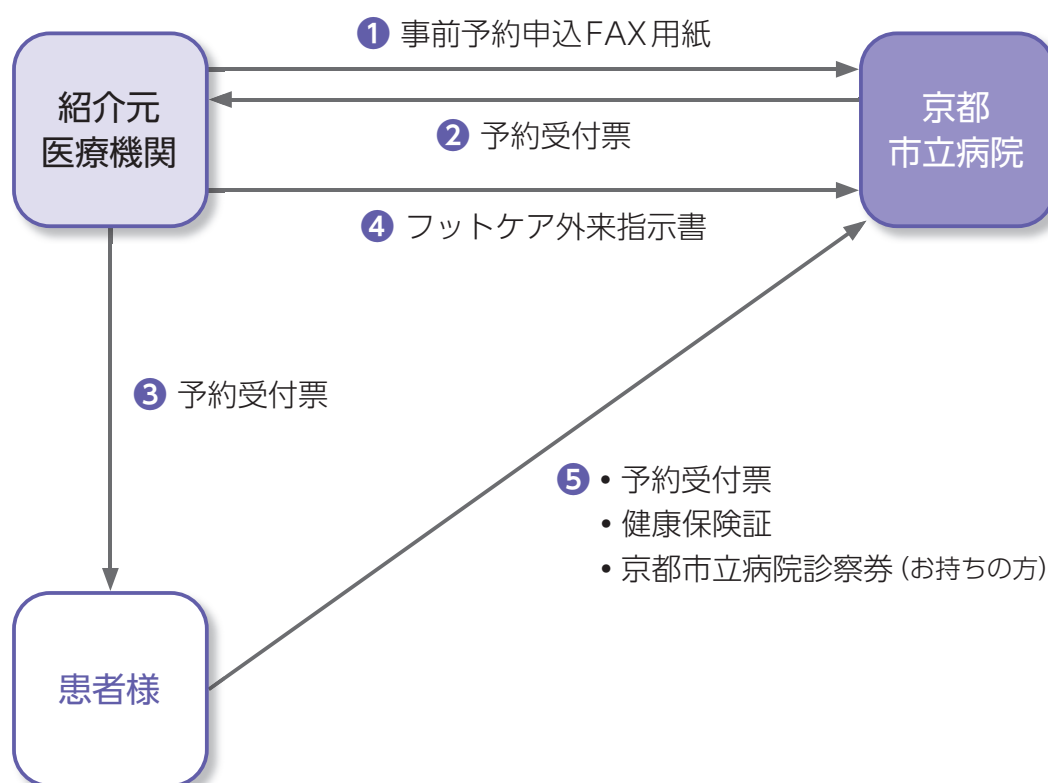
市立病院・京北病院 ID番号 (分かる場合のみご記入ください。)	
ふ り が な 氏 名	(旧姓) 生年月日 明・大・昭 平・令 年 月 日 (歳)
性 別	男 ・ 女 身 長 cm 体 重 kg
栄養指導予約日	月 日 () 時 分
病 名	
指示栄養量 エネルギー kcal	蛋白質 g 脂 質 g
食 塩 g	P/S比 1.5 その他 ()
コメント	
検査結果 (添付も可能です)	

(4) フットケア外来

フットケアとは糖尿病ハイリスク要因を有する患者（足潰瘍、足指・下肢切断既往のある方、糖尿病神経障害のある方）を対象に糖尿病療養指導士が指導を行います。

なお、フットケア外来は、京都市立病院指定のフットケア外来指示書が必要です。

予約日の3日前までに、地域連携室へFAX送信ください。



① 「事前予約申込FAX用紙」に必要事項を記入し、地域医携室までFAX送信してください。

② 直ちに予約をお取りし、「予約受付票」をFAXで返信致します。
ただし、受付時間外のFAXについては、翌営業日の朝にご連絡致します。

③ 患者様に以下をお渡しください。
・ 予約受付票

④ 「フットケア指示書」にご記入いただき、予約日の3日前までに地域連携室へFAX送信してください。

⑤ 患者様は来院時に以下をお持ちください。
・ 予約受付票
・ 健康保険証
・ 京都市立病院診察券（お持ちの方）

* 患者様が受診されましたら、糖尿病療養指導士からフットケア外来報告書を郵送致します。

年 月 日

フットケア外来指示書

この度は患者様のご紹介ありがとうございます。お手数ですが、患者様の状況とフットケア外来への指示内容をご記入下さいますようよろしくお願いします。下記の内容の記載があれば貴院の様式でご利用いただいても構いません。外来予約日の3日前までに送信していただきますようお願いいたします。

患 者 名		様（旧姓）	
生年月日	年 月 日生（ 歳）	性別	☐ 男 ☐ 女
住 所			

診断名			

○検査データ	H b A 1 c	%	
	空腹時血糖値	mg/dl	随時血糖値 mg/dl

○依頼事項・特記事項			
○備考		医療機関名	

CONTENTS

診療科のご案内2023

● 呼吸器内科	1	● 整形外科	17
● 消化器内科	2	● 皮膚科	18
● 腫瘍内科	3	● 形成外科	19
● 循環器内科	4	● 泌尿器科	20
● 腎臓内科	5	● 産婦人科	21
● 脳神経内科	6	● 眼 科	22
● 血液内科／輸血・造血幹細胞移植科	7	● 耳鼻いんこう科	23
● 内分泌内科	8	● 歯科口腔外科	24
● 糖尿病代謝内科	9	● 放射線治療科	25
● 感染症科	10	● 放射線診断科・IVR科	26
● 精神神経科	11	● 病理診断科	27
● 小児科	12	● 緩和ケア科	28
● 総合外科(消化器外科・小児外科)	13	● 救急科	29
● 乳腺外科	14	● 麻酔科	30
● 呼吸器外科	15	● 集中治療科	31
● 脳神経外科	16	● リハビリテーション科	32

診療相談電話(医療機関専用)	33
----------------	----

アクセス	34
------	----

呼吸器内科



肺癌、間質性肺疾患、COPD、喘息、肺結核

呼吸器内科部長 おぐま つよし 小熊 毅

診療スタッフ／診療科の特色・体制

- 常勤医8名の体制で外来診療・入院診療を行っています。総合内科専門医4名、呼吸器専門医6名、結核・抗酸菌症認定医2名、がん治療認定医4名が在籍し、多彩な呼吸器疾患に対応しています。
- 新型コロナウイルス感染症の流行前は結核病床を12床有しており、京都市内の結核症例の診療を行ってきました。新型コロナ患者の受け入れのため病床を閉鎖していましたが、2023年5月より4床で再開しています。

診療内容 (取り扱う主な疾患)

- 肺癌、胸膜中皮腫など胸部腫瘍
- 細菌性肺炎、膿胸、結核、非結核性抗酸菌症
- 間質性肺炎
- 喘息、慢性閉塞性肺疾患 (COPD)

特に得意とする疾患

- 入院症例の半数以上を肺癌を始めとする腫瘍性疾患が占め、診断、治療とも多くの経験を有しています。
- 当院には膠原病内科の病床がなく、間質性肺疾患を合併した膠原病症例（リウマチ、皮膚筋炎、強皮症など）が入院治療を必要とする場合呼吸器内科が診療してきました。
- 病床的には限定的な再開になりますが、結核病床を持つ数少ない総合病院として結核治療に対応していきます。
- 外来診療では喘息、慢性咳嗽への対応を強化していきたいと考えています。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

これまで同様肺癌症例について積極的に受け入れていきたいと考えています。切除不能肺癌であっても、遺伝子変異検査による個別化医療、免疫チェックポイント阻害薬の普及以来、生存期間が大きく伸びています。お気軽にご紹介ください。

結核排菌症例の入院加療についてはまだ病床が限られていますため、まず連携室にご相談ください。

消化器内科



ガイドライン・エビデンスに基づいた 患者さんファーストのチーム医療

消化器内科部長 やました やすひで 山下 靖英

診療スタッフ／診療科の特色・体制

日本消化器病学会、日本肝臓学会、日本消化器内視鏡学会、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医など各学会の指導医・専門医が複数在籍しています。専攻医とともに良性・悪性、急性・慢性問わず、すべての消化器疾患に対して、専門性を生かした診療をバランスよく行っています。

精密な検査により正確な診断を行い、ガイドライン・エビデンスに基づいた治療を心掛けています。

外科や放射線科ともカンファレンスを行い、患者さん第一のチーム医療を目指しています。

診療内容（取り扱う主な疾患）

食道癌、胃癌、十二指腸癌、小腸癌、結腸・直腸癌、肝癌、胆嚢癌・胆管癌、膵癌、GIST、神経内分泌腫瘍
胃ポリープ、大腸ポリープ

逆流性食道炎、食道胃静脈瘤、胃十二指腸潰瘍、H.pylori感染症、炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎）、憩室炎・憩室出血

ウイルス性肝炎（B型肝炎、C型肝炎）、脂肪性肝疾患、自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎、肝膿瘍
胆嚢結石、胆嚢ポリープ、胆管炎（胆管結石）、急性・慢性膵炎、自己免疫性膵炎 などすべての消化器疾患

特に得意とする疾患

- 内視鏡治療
- ・早期消化管癌に対するEMR・ESD、大腸ポリープに対するCSP・CFP
 - ・進行消化管癌・胆膵癌に対するステント（術前・緩和）
 - ・消化管出血、胆管炎などに対する緊急内視鏡治療
- 化学療法
- ・進行消化管癌・胆膵癌に対する化学療法、放射線治療など集学的治療（腫瘍内科と連携）
- 肝癌に対する集学的治療
- ・TACE、RFA、PEIT、化学療法、放射線治療
- ウイルス性肝炎に対する抗ウイルス療法

地域の医療機関先生方へのメッセージ

当院では限られたスタッフが専門性を持ちながら、消化器内科全般を診療できる体制をとっています。今後もその利点は残しつつ、より専門的で質の高い医療を提供できるような消化器内科を目指したいと存じ上げます。お困りの患者様がおられましたらお気軽にご紹介下さい。また病状が安定された患者様におかれましては地域の先生方と連携をとっていききたいと存じ上げます。

腫瘍内科



切れ目のないがん診療を提供する
コーディネーター

腫瘍内科部長 きりしま としひこ
桐島 寿彦

診療スタッフ／診療科の特色・体制

部 長 桐島寿彦 臨床腫瘍学 がん薬物療法

担当部長 宮川昌巳 臨床腫瘍学 がん薬物療法

招聘医師 中島貴子 臨床腫瘍学 がん薬物療法（京都大学大学院医学研究科 早期医療開発学教授）

スタッフは日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医、日本がん治療認定機構がん治療認定医・指導医、日本内科学会総合内科専門医などの資格を有しています。

診療内容（取り扱う主な疾患）

- ・食道がん ・胃がん ・大腸がん ・胆道がん・肝がん ・膵がん ・悪性腹膜中皮腫・神経内分泌腫瘍
- ・甲状腺がん ・頭頸部がん ・卵巣がん（腹膜がん） ・原発不明がん・性腺外胚細胞性腫瘍
- ・悪性軟部腫瘍 ・その他悪性腫瘍一般

特に得意とする疾患

- 1) 消化器がんなどの得意分野に加え、その他の固形腫瘍に対するがん薬物療法にも対応します。
- 2) 2019年12月よりがんゲノム遺伝子パネル検査を開始し、遺伝子異常に基づいたがん治療を行っています。
また、2020年4月からがんゲノム検査外来を開設し、院内外からがんゲノム遺伝子パネル検査を希望される患者さんを受け入れています。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

最新のエビデンスに基づいた、がん薬物療法を提供するだけでなく、患者さんが望む生活が続けられるように患者価値を重視した診療を心がけています。がん薬物療法が必要な患者さん、診断に難渋する患者さん、がんゲノム医療を希望される患者さんがいらっしゃいましたらお気軽にご紹介下さい。

循環器内科



コロナ禍新時代の循環器治療を目指して

循環器内科部長 ^{まつお} 松尾 あきこ

診療スタッフ／診療科の特色・体制

令和5年7月より当科の部長が新しくなり、メンバーの交代および増員となって新チームの結成となりました。循環器学に熟練した中堅メンバーが多く占めているのが特徴で、近隣医療機関との地域連携が強固に構築されてきたこともあり、緊急症例を含め24時間いつでもスムーズに患者対応いたします。また、循環器病棟の中に心血管造影室が設けられていることや、集中治療室に隣接しているという構造上の特徴が、入院患者様への速やかな対応を可能にしており、安心して入院生活を送っていただけます。

診療内容（取り扱う主な疾患）

取り扱う主な疾患は、高血圧、脂質異常、心不全、心筋炎、心筋症、虚血性心疾患（急性冠症候群、狭心症）、末梢動脈疾患（手、下肢、腎）、徐脈性および頻脈性不整脈があります。診断や治療方針決定には画像診断が重要で、心電図や心エコーなどの一般的な検査に加え、冠動脈造影CTや心臓カテーテル検査、機能診断も可能な心臓核医学検査、心臓MRIを行います。運動耐容能や予後評価としての心肺運動負荷試験も当院では可能です。

これらの治療として、ガイドライン推奨薬物治療に加え、必要に応じて経皮的カテーテル治療、ペースメーカー植え込み術を行っています。また、緊急重症例にはECMO使用も行っています。

特に得意とする疾患

従来当科は、急性心筋梗塞、狭心症、末梢動脈疾患に対する経皮的カテーテル治療を中心としていましたが、これらに加えて、高齢化に伴う心不全パンデミックに対応すべく、現在、心不全治療にも重点をおく体制作りをしています。さらに、心不全治療の一貫としての心臓リハビリテーションも充実しています。また、入院を要する心不全患者の4-5割に心房細動が合併するようになっており、不整脈への対応も重視されています。心房細動へのカテーテル治療は薬物療法より良いというエビデンスが増加してきており、当院でも近々不整脈へのカテーテル治療が可能となる予定です。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

コロナ禍、高齢化、心不全パンデミック、財政難、環境問題、戦争という様々な困難な中の医療において、持続可能な医療を考える時代となりました。何が本当に正しいのかわかりませんが、医療は患者様の生活が中心にあるため、いくら高度な治療を行っても単施設では解決できません。地域の医療機関を含めた様々な方々との連携が大切と考えております。新しいチームとして出発したところですが、これからもよろしくお願いいたします。

腎臓内科



尿検査異常から腎炎・末期腎不全まで、
全ての腎疾患に全力で対応します。

腎臓内科部長 いえはら のりゆき
家原 典之

診療スタッフ／診療科の特色・体制

- 家原典之（腎臓内科部長）、富田真弓（副部長）、矢内佑子（医長）、志水愛衣（医長）、山本耕治郎（医長）、池田紘幸（医員）、他1名の常勤医師7名で診療にあたっています。（日本内科学会総合内科専門医5名、機構内科専門医1名、腎臓学会専門医6名、透析医学会専門医6名、各学会指導医3名）
- 日本内科学会認定教育施設、日本腎臓学会認定教育施設、日本透析医学会認定施設、など各学会から体制を評価されています。

診療内容（取り扱う主な疾患）

- ガイドラインに即し、エビデンスに基づいた治療を行います。
- 腎生検組織診断に基づいた正確な診断と治療を行います。
- 地域の先生と共に二人主治医制を行います。
- 対象疾患：尿検査の異常・原因不明の腎機能低下、電解質異常、糖尿病性腎臓病、慢性腎炎、ネフローゼ症候群、急速進行性腎炎など膠原病に伴う腎疾患、急性腎不全、保存期慢性腎不全、透析導入、腎移植を除く腎代替療法、維持透析患者の種々の合併症、種々の疾患に対する特殊血液浄化療法（免疫吸着などのアフエレシス治療）

特に得意とする疾患

腎臓病教室を奇数月第2・3・4週木曜日に開催して、患者さんにわかりやすい医療を提供しています。
（第2週は疾患解説と薬剤、第3週は食事療法と腎臓リハビリ、第4週は腎代替療法と各種医療福祉制度を解説）
糖尿病性腎臓病は血管病であることを踏まえて、各種検査教育入院を設定しています。特に2泊3日コースは仕事を持っている患者さんにも無理なく受けていただけます。
毎月第1木曜日は常染色体優性多発性嚢胞腎専門外来を行い、疾患の診断から進展阻止治療を提供しています。
腎代替療法では年間50名程度の導入を行っています。経験豊富なスタッフが患者さんの意向を重視した方針決定に参画しています。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

上記の腎臓病教室は地域の先生からの紹介も受け付けています。連携室にお問合せください。
当院における透析導入時の心臓カテテル検査の結果、心血管合併症を有する患者さんの8割以上が糖尿病性腎臓病であることが明らかになりました。新しい適応薬剤も増えてきましたので是非とも2人主治医制で早期（保存期）からの介入をと考えています。食事療法を体験し、患者さんに自覚を促し、しっかりと病変を見つける検査教育入院もお勧めしています。
嚢胞腎診断や外来食事療法などの依頼にも対応しています。お気軽にご紹介ください。

脳神経内科



急性期脳卒中、てんかん、認知症、
神経難病など幅広い診療を目指します。

脳神経内科部長 なかや よしふみ
中谷 嘉文

診療スタッフ／診療科の特色・体制

診療部長の中谷嘉文、副部長の村井智彦、医長の大封昌子、南山素三雄、医員の白波瀬勇人、三浦瑠莉のスタッフ4名が常勤医として勤務しています。これに加え専攻医として大浦琢巨が在籍し、合計7人体制で診療にあたっています。週4回の早朝カンファレンス、週一回の病棟の部長回診などを行っており、入院患者の情報を共有し、検査や治療についても合議制で方針を決定し診療を進めています。脳血管障害、てんかん、脳炎などの救急患者は、オンコール医師を設定して対応しています。重症患者については、救急医、ICU医師と協力し、必要に応じて集中治療室での集約的治療を行っています。

診療内容（取り扱う主な疾患）

入院患者の50％程度が脳血管障害患者であり、年間200人以上の入院があります。脳神経内科では主に脳梗塞、TIAの診療を担当します。その他てんかん、片頭痛などの機能性疾患、感染性脳炎・髄膜炎、多発性硬化症・視神経脊髄炎や自己免疫性脳炎など自己免疫疾患、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症など神経難病、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症などの認知症疾患などが対象疾患となります。その他ギラン・バレー症候群、CIDPなどの末梢神経疾患、筋炎、筋ジストロフィー、重症筋無力症などの筋疾患の診療にも力を入れており、幅広い疾患に対応することを心がけています。

特に得意とする疾患

当院は、日本脳卒中学会からPSC（一次脳卒中センター）の認定を受けており、急性期脳梗塞患者に対するrt-PA静注療法を含めた急性期治療を24時間365日の体制で行っています。週一回脳外科医師との合同カンファレンスを開催し、血管内治療、血行再建術の適応について相談しています。また、てんかん専門医が2名在籍しており、脳波判読、抗てんかん薬の選択などを含めた専門的治療を進めています。認知症疾患については、院内にDST（認知症サポートチーム）を設置し、他職種スタッフと協力し、入院患者の認知症治療、せん妄対策などについての活動を行っています。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

脳卒中、てんかん、脳炎などの救急神経疾患の入院にての診療を受け入れております。外来診療については地域連携枠を設定しており、ご紹介いただいた患者様に診療を行っています。また、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、など神経難病患者の在宅診療を、レスパイト入院を受け入れて支援しています。その他、脳波や神経伝導検査などの神経生理学的検査についても、火曜日に地域連携枠を設定して対応しております。必要時ご相談いただければ幸いです。

血液内科／輸血・造血幹細胞移植科



憎き悪性細胞と熱く戦おう！
寛解から社会復帰を目指して

血液内科輸血・造血幹細胞移植科部長 いとう みつる 伊藤 満
血液内科部長 みやはら やすこ 宮原 裕子

診療スタッフ／診療科の特色・体制

- 伊藤 満（血液内科輸血・造血幹細胞移植科部長）、宮原裕子（血液内科部長）、松井道志（医長）、櫻田麻希（医長）ほか医員2名、専攻医2名の常勤医師8名（日本血液学会血液指導医2名、同血液専門医4名、日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医3名、日本内科学会総合内科専門医3名、日本輸血・細胞治療学会認定医1名）、および非常勤医師2名（日本血液学会血液専門医）で診療に当たっています。
- 日本血液学会専門研修認定施設、日本内科学会認定教育病院、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本造血・免疫細胞療法学会認定診療科（カテゴリー1）など、各種学会の認定を受けています。

診療内容（取り扱う主な疾患）

- 血液疾患全般（急性・慢性白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、多血症、本態性血小板血症、骨髄繊維症、再生不良性貧血、鉄欠乏性貧血、悪性貧血、溶血性貧血、特発性血小板減少性紫斑病、血球貪食症候群、血友病など）を扱っています。
- 難治性血液疾患に対して実施する造血幹細胞移植（骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植）は、自家移植から同種移植（血縁者間移植、骨髄バンク非血縁者間骨髄・末梢血幹細胞採取移植、さい帯血バンク非血縁者間臍帯血移植）まであらゆる移植に対応しています。

特に得意とする疾患

- 一般病院や診療所では対応困難な血液疾患患者を広く受け入れています。入院患者の80%以上は急性白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫といった造血器悪性疾患です。
- 近年血液内科分野で多く登場している分子標的治療薬、抗体医薬、免疫調整薬、再生医療等製品など、これまでの常識を覆す新規治療薬を積極的に使用し、エビデンスに基づいた最新治療を行なっています。また、京都大学やJALSG（日本成人白血病研究グループ）等の臨床研究にも対応しています。
- 造血幹細胞移植施設としては京都府下でも屈指の移植件数を誇りますが、小児科の血液グループとの協力体制のもと、AYA世代を含む全年齢層に対応可能です。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

現在、地域連携を通し、多くの症例をご紹介いただいております。健診やドックなどでの血液検査の異常から、出血症状、発熱、盗汗、体重減少、リンパ節腫脹、骨痛など症状出現でのご紹介などが挙げられます。血液疾患のほとんどは待ったなしの診断と治療開始が必要となります。私共は、どこまでもフットワークよく対応させていただくことを念頭に、症状の安定した患者さんについてはできるだけ近隣の医療機関へご紹介させて頂くよう、相互の病診連携の強化を推し進めています。連日新患を受け付けておりますので、ぜひ軽微な事象でもお気軽にご相談いただき、ご紹介ください。

内分泌内科



内分泌疾患診療のハブとして
最高水準の医療を提供します。

内分泌内科部長 こまつ やさと
小松 弥郷

診療スタッフ／診療科の特色・体制

常勤医師3名（日本内分泌学会専門医指導医1名、日本甲状腺学会専門医1名、日本内科学会研修指導医1名、日本高血圧学会専門医指導医1名、日本骨粗鬆症学会認定医1名）

診療内容（取り扱う主な疾患）

間脳下垂体：下垂体機能低下症、小人症、先端巨大症、PRLoma、クッシング病、尿崩症、SIADH、甲状腺：バセドウ病、バセドウ眼症、橋本病、亜急性甲状腺炎、無痛性甲状腺炎、甲状腺癌、副甲状腺：原発性副甲状腺機能亢進症、二次性副甲状腺機能亢進症、特発性副甲状腺機能低下症、偽性副甲状腺機能低下症、腎性骨異常栄養症、腫瘍随伴性骨軟化症、骨粗鬆症、骨軟化症、骨形成不全症、副腎：副腎皮質機能低下症、原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫、偽性アルドステロン症、その他：インスリノーマ、クラインフェルター症候群、カルマン症候群、PCOS、MEN、自己免疫性多内分泌腺症候群、神経線維腫症、ジッテルマン症候群、ターナー症候群、シルバー・ラッセル症候群など。

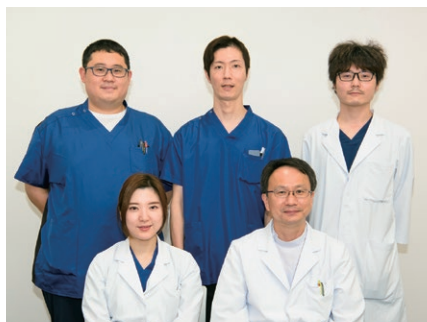
特に得意とする疾患

- 間脳下垂体疾患 ▶ 各種機能検査、ホルモン補償療法、間脳下垂体機能障害指定難病の申請、手術例は脳神経外科と共同します。
- 甲状腺疾患 ▶ バセドウ病に対するI-131内用療法、甲状腺エコーガイド下穿刺吸引細胞診（FNA）、甲状腺癌術後アブレーションの実施施設、甲状腺癌など手術例は耳鼻咽喉科と共同します。
- 副甲状腺疾患 ▶ ^{99m}Tc MIBI シンチグラフィ、透析患者にみられる二次性副甲状腺機能亢進症、手術例は泌尿器科と共同します。
- 副腎疾患 ▶ 原発性アルドステロン症、クッシング症候群や褐色細胞腫。各種副腎シンチグラフィ、副腎静脈血サンプリング（AVS）を放射線診断科と年間約10例。
- 骨粗鬆症 ▶ DXA法による骨密度測定（年間約1000例）。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

2021年から「認定NPO法人京滋骨を守る会」理事として骨粗鬆症の啓蒙活動を行っています。「京都地区病院研修医・若手医師のための代謝・内分泌セミナー」を年2回計25回実施、医学専門誌「診断と新薬」、「第1回～第10回記録集（2007.12 - 2012.5）症例に学ぶ代謝・内分泌学」を刊行、日本内分泌学会専門医委員会委員を務めるなど内分泌領域の専門医教育養成に、また毎年「KYOTO METABOLIC FORUM」「みぶ医療連携を考える会」を主催するなど地域医療連携に尽力しています。

糖尿病代謝内科



健康な人と変わらない人生のために

糖尿病代謝内科部長 こぐれ あきのり 小暮 彰典

診療スタッフ／診療科の特色・体制

常勤医3名（日本糖尿病学会専門医3名、日本内科学会総合内科専門医2名、日本病態栄養学会専門医2名、日本肥満学会専門医2名）、専攻医1名、糖尿病認定看護師1名、糖尿病療養指導士（CDEJ：看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士）15名。入院ベッド12床で、1日平均47名の外来受診があります。フットケア外来では、専門看護師が足病変のチェック・ケア指導、透析予防外来では糖尿病性腎症の進展防止のための指導をしています。糖尿病療養指導外来では、看護師が日常の療養支援、インスリンやSMBG指導などを行っています。管理栄養士は10名在籍し、患者さんの状況に応じた栄養指導を行っています。

診療内容（取り扱う主な疾患）

糖尿病に対しては、食事療法と運動療法を実践と適切な薬物療法にて、生涯にわたりQOLを低下させないことを目標として、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士によるチーム医療を行っています。糖尿病の教育入院を行っているほか、糖尿病性ケトアシドーシス・高浸透圧高血糖、低血糖といった糖尿病急性合併症も多数受け入れています。年間およそ210人の入院患者があり、当科通院中の糖尿病患者は約2000人です。もう一つの特色である肥満症治療については肥満症外来を開設し、減量困難例に対しては入院治療も行っています。脂質異常症・高尿酸血症などの代謝性疾患も担当しています。

特に得意とする疾患

糖尿病では、患者に糖尿病を理解していただき、全身状態・合併症評価のうえ個々の症例に適した治療を考え、食事・運動療法を実践して自己管理していただくことが重要です。これらを短期間でまとめることができる教育入院は、糖尿病治療の有効な手段の一つです。当院では、糖尿病教育入院は、主に3泊4日、7泊8日、11泊12日の3コースで行っています。短期間の入院治療ですが、食事・運動療法のうえ最小限の投薬により血糖改善を自覚していただき、再びかかりつけ医での治療を続けていただくことで糖尿病患者の“健康な人と変わらない人生”を強力にサポートします。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

医療の進歩にもかかわらず、いまだに多くの方々が糖尿病合併症・併存症のため健康寿命を損ねています。糖尿病は、初めて発症してからいかに早く良好なコントロールを得るかが、その患者の将来に大きく影響することが知られています。初発の糖尿病やコントロールにうまくいかない症例、合併症を評価したい場合、シックデイの場合など、入院・外来にかかわらず、いつでもご紹介ください。

感染症科



感染症法の対象となる感染症、不明熱、HIV、
海外渡航前後の相談は感染症科へ

感染症科部長 とちたに けんたろう
栃谷 健太郎

診療スタッフ／診療科の特色・体制

- 副院長：清水恒広、部長：栃谷健太郎、医長：與語葵、元林寛文、医員：岩本伸紀、谷口昌史
- 京都市内で唯一の第2種感染症指定医療機関の指定を受け、専用病床を8床有し、感染症法上入院の必要な京都市及び乙訓地区の2類感染症患者を受け入れています
- エイズ治療拠点病院として、HIV陽性患者の診療を行っております

診療内容（取り扱う主な疾患）

- 免疫能正常患者、免疫能低下患者を問わず、尿路感染症、感染性腸炎、肺炎、インフルエンザ、心内膜炎、髄膜炎、骨髄炎、関節炎、皮膚軟部組織感染症、菌血症など一般感染症や難治性感染症
- HIV感染症とそれに伴う日和見感染症
- 2類感染症（重症急性呼吸器症候群いわゆるSARS、H5N1及びH7N9鳥インフルエンザ、ジフテリア、中東呼吸器症候群いわゆるMERS、ポリオ）、3類感染症（細菌性赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、腸管出血性大腸菌感染症）などの感染症法の対象となる感染症
- マラリア・デング熱などの熱帯感染症・輸入感染症。リケッチア症、各種寄生虫疾患、その他海外渡航後の発熱、下痢、発疹など体調不良全般

特に得意とする疾患

上記疾患の他、診断のついていない発熱（いわゆる不明熱）、原因のわからない血液検査での炎症反応高値の診療も幅広く行っております。

また、ビジネス、留学、旅行など目的に関わらず、渡航前の予防接種などの相談も積極的に行っております。带状疱疹、肺炎球菌など渡航に関連しない予防接種の相談も受け入れております。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

新型コロナウイルス感染症は5類感染症に移行し、その対応が大きく変わる1年となりそうです。インフルエンザのように、多くの医療機関で診療を行っていくことが求められる一方、その強い感染力は変わらず、しばらくは対応に四苦八苦することになるでしょう。当院でも主に入院診療において、引き続き地域での役割を担っていこうと考えておりますので、どうぞご協力のほどよろしくお願いいたします。

精神神経科



自分らしい生活の実現にむけて
チーム医療で支えます

精神神経科部長 いしだ ともふみ
石田 明史

診療スタッフ／診療科の特色・体制

当科ではコンサルテーション・リエゾン活動を通して、精神医学と身体医学の境界領域において生じる症状や課題への対応を重点的に行っております。

常勤医師 1 名、精神保健福祉士 1 名、臨床心理士 1 名が各々の専門性を活かしてチームとして関わっています。

診療内容 (取り扱う主な疾患)

当院にて身体疾患治療中の患者さんのうち、精神医学的な対応を要する方への診療を行っております。

認知症性疾患やその他の身体疾患に伴う精神症状をはじめ、統合失調症、うつ病や躁うつ病などの気分障害、神経症圏の疾患など幅広い精神障害を対象としており、医師による診察のほか、必要に応じて頭部CTやMRI、SPECT、心理検査などを実施しています。

なお、現在人員不足等のため外来診療の新規受け入れは中止させていただいております。

特に得意とする疾患

総合病院という環境から、一般身体疾患による症状としての精神障害や治療薬による精神障害が診療対象となることが多く、身体科主治医と連携しながら問題解決に向けた活動を行っています。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

当科では精神医学領域の幅広い病態・病状への対応を行っていますが、なかでも総合病院において生じる精神医学的な病状や課題への対応を重点的に行っております。その中には認知症ケア、緩和ケア、ハイリスク妊産婦への対応、自殺企図後の支援などのテーマが含まれますが、これらは地域医療機関の皆様との緊密な連携なくして取り組める課題ではありません。共に力を合わせてこの地域のケアの質の向上を図っていければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

小児科



一般・感染症疾患から、未熟児、血液・腫瘍性疾患
など高度医療までをカバーしています

小児科部長 いしだ ひろゆき
石田 宏之

診療スタッフ／診療科の特色・体制

院長、副院長を含め常勤医として小児科学会専門医14名、小児神経専門医2名。小児血液・がん専門医3名、血液専門医5名、救急科専門医1名、小児の臨床心理士1名に加え、非常勤医として腎臓専門医2名により日常臨床を行っています。外来4診（午前は主に一般急病疾患、午後は各専門外来）以外に救急患者様は救急室での診療を行っており、小児入院病床26床（移植対応部屋3床を含む）、NICU/GCU 10床で運用しています。昨年度の小児科入院実績は966名でした。

診療内容（取り扱う主な疾患）

てんかん、神経変性疾患、脳炎・脳症などの神経疾患、白血病、リンパ腫、血小板減少症などの血液疾患、神経芽腫、横紋筋肉腫などの腫瘍性疾患、甲状腺機能低下・亢進症、糖尿病、成長ホルモン分泌不全性低身長、思春期早発症などの代謝内分泌疾患、尿路感染症、ネフローゼ症候群、慢性糸球体腎炎などの腎疾患、食物アレルギー、喘息などのアレルギー性疾患、（外科疾患を含む）熟児・新生児疾患、若年性特発性関節炎、皮膚筋炎などのリウマチ疾患の他、集中治療を要する疾患の対応、乳幼児健診、予防接種、心理カウンセリングなどの専門領域をカバーしています。二次救急にも注力しており、昨年度の救急車搬送件数は973件で、近隣の医療機関からの後送も積極的に受け入れています。

特に得意とする疾患

神経：てんかん性疾患

血液：白血病・リンパ腫（JCCG参加施設）、造血幹細胞移植（造血・免疫細胞療法学会認定カテゴリー 1）

代謝・内分泌：糖尿病（インスリンポンプ）、思春期早発症

腎臓：各種腎疾患（腎生検）

アレルギー：食物アレルギー（食物負荷試験）

地域の医療機関先生方へのメッセージ

小児科疾患に関しては、時間内の受け入れのみならず、24時間365日小児科医が対応しております。

慢性疾患は地域の先生方と連携しながら、また当科が得意でない分野や当院での施行が困難な外科的治療に関しては関連大学病院などと連携を取りながら、診療を進めてまいりますので、どうぞ気になる患者様がございましたらご相談いただければ幸いです。なお、常勤の小児外科医もおりますので、外科的疾患が疑われる場合もご遠慮なくご相談ください。よろしくお願いいたします。

総合外科（消化器外科・小児外科）



新しいスタッフも加入し、更に高度な
外科治療を提供できるようになりました。

総合外科部長 はた こういちろう 秦 浩一郎

診療スタッフ／診療科の特色・体制

日本外科学会専門医10名・指導医5名、日本消化器外科学会専門医7名・指導医7名、消化器がん外科治療認定医7名、日本肝胆膵外科学会高度技能専門医2名、日本内視鏡外科学会技術認定医2名、日本がん治療認定医機構がん治療認定医5名、日本小児外科学会小児外科専門医1名、ダヴィンチ手術支援ロボットコンソール術者認定医5名など、多くの専門医・指導医資格を持つエキスパートが協力して治療に当たる、京都府下でも有数の体制をとっています。今年度より日本肝胆膵外科学会・高度技能専門医2名の常勤体制となり、大学病院を除けば複数の高度技能専門医が常勤している施設は京都府では当院のみ（令5年4月調べ）です。

診療内容（取り扱う主な疾患）

- 消化管領域では、胃癌・大腸癌・食道癌・間質性腫瘍（GIST）などの腫瘍性疾患に対する鏡視下手術や、虫垂炎・消化管穿孔・腹膜炎などの良性疾患に対する緊急手術を行っています。
- 肝胆膵領域では、肝癌（原発性・転移性）・膵癌・胆道癌などの悪性腫瘍に対する切除術に加えて、胆石症/胆嚢炎・脾機能亢進症などの良性疾患に対する手術にも対応しています。
- 小児外科領域では、鼠径ヘルニア・停留精巣や肥厚性幽門狭窄症などに対する手術療法を中心に扱っています。
- また成人・小児を問わず、外傷や成人の鼠径ヘルニア・下肢静脈瘤などに対する一般外科診療も行っています。

特に得意とする疾患

- 胃癌・大腸癌・食道癌など消化管癌に対しては、手術支援ロボット da Vinci Xi、腹腔鏡・胸腔鏡を用いた低侵襲手術を積極的に行っています。
- 肝胆膵の悪性腫瘍に対しても、精緻な術前シミュレーション画像に基づき、ロボット・腹腔鏡から開腹手術まで、安全性・低侵襲性・根治性のバランスが取れた最適な手術を提供しています。
- また小児外科専門医も常勤として在籍し、鼠径ヘルニアなど短期滞在手術から長期入院を要する疾患まで、小児外科疾患に幅広く対応しています。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

今年度より日本肝胆膵外科学会・高度技能専門医2名の常勤体制となり、消化管・肝胆膵・小児外科いずれの領域においても、安全性・低侵襲性・根治性のバランスが取れた最適な外科治療を提供可能な体制となっています。御紹介、また逆紹介など先生方との緊密な連携のもと、より安全かつ高度な外科治療を提供して参ります。

引き続き御指導と御支援の程宜しくお願い申し上げます。

乳腺外科



エビデンスに基づき個別化を図り、
個々の患者さんに最新、最適、最良の治療を行います。

乳腺外科部長 もりぐち よしお
森口 喜生

診療スタッフ／診療科の特色・体制

部長 森口喜生(日本乳癌学会乳腺専門医・指導医、日本外科学会専門医・指導医、日本乳癌学会評議員等)、
副部長 末次弘実(日本乳癌学会乳腺専門医・指導医、日本外科学会専門医等)、医長 西村祥子(日本乳癌学会乳腺
専門医、日本外科学会専門医等)、専攻医 服部響子の4人体制です。

乳癌の治療は日進月歩であり外科治療、薬物治療、放射線治療など多岐にわたり、新しい治療が日々出てきます。
当科では最新のエビデンスに基づき治療成績の向上に努めています。患者様の個別化(臨床病理所見、各種遺伝子検
査、患者様の価値観を検討、考慮)を図り種々の治療の中から個々の患者様に最適な治療を選択し実施しています。

診療内容(取り扱う主な疾患)

取り扱う主な疾患は、乳癌、葉状腫瘍、乳管内乳頭腫、線維腺腫、乳腺症、乳腺炎、女性化乳房症など、悪性か
ら良性疾患に至る広範な乳腺疾患の診療を行っています。診断では超音波検査、マンモグラフィ(トモシンセシ
ス)、MRI等の画像診断やマンモトーム生検(ステレオガイド下、エコーガイド下)、針生検などの病理検査を適応
に応じて実施します。診療の中心は乳癌の診断治療ですが、乳がんドックで検診も行っています。また遺伝性乳
癌外来(自費診療)では遺伝性乳癌の相談を行っています。

特に得意とする疾患

得意とする疾患は乳癌で年間約100例の初回手術を行っています。適応症例には術前薬物療法(短期間での
dose-dense 化学療法、抗HER2療法、免疫チェックポイント阻害薬も行っています)を行い、乳房温存率の向上、
手術侵襲の軽減に努めています。可及的に温存手術を行い整容性の保持に努めています。乳房切除術や広範囲の
部分切除では形成外科と連携し自家組織や人工物による乳房再建手術を積極的に実施しています。

薬物療法では最新のエビデンスに基づき個々の患者様に最適な治療を行っています。当院は遺伝性乳癌卵巣
癌総合診療暫定基幹施設であり遺伝性乳癌卵巣癌症候群(HBOC)の診療にも力を入れています。HBOCの乳癌
症例では予防的対側乳房切除術も保険診療で実施可能です。転移性乳癌の適応症例では遺伝子パネル検査を実
施し“がんゲノム医療”を行っています。豊富な多職種のスタッフのチーム力を生かし安全・確実・迅速・最良な診
療を行いあらゆる面から患者様をサポートしていきます。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

平素より大変お世話になり誠に有難うございます。当院では乳癌の検診から診断から手術、薬物療
法、放射線療法、遺伝性乳癌卵巣癌症候群の診療(対側乳房の予防的乳房切除術などリスク低減手術
含む)、転移性乳癌のがんゲノム医療、緩和医療まで、フルスペックで乳癌診療に対応し最新最良の治
療を行なっております。また化学療法時の脱毛予防のため頭皮冷却装置を導入・実践しております。
これからも地域医療連携を通じて患者様をサポートしていきたいと存じます。乳腺疾患が疑われる
方がおられましたら何卒当院へご紹介頂ければ幸いです。水曜日の17時から19時にも初診の予約を
受け付けておりますので何卒宜しくお願い申し上げます。

呼吸器外科



安全な低侵襲手術と切れ目のない医療を
提供します

呼吸器外科部長 みやはら りょう 宮原 亮

診療スタッフ／診療科の特色・体制

- 部 長: 宮原 亮 (日本外科学会専門医・日本呼吸器外科学会専門医/評議員・胸部外科学会認定医・日本呼吸器学会呼吸器専門医・肺癌学会評議員・Da Vinci手術コンソール医/プロクター)
- 副部長: 河野朋哉 (日本外科学会専門医/指導医・日本呼吸器外科学会専門医/評議員・胸部外科学会指導医・日本呼吸器学会呼吸器専門医・Da Vinci手術コンソール医)
- 医 長: 村西佑介 (日本外科学会専門医・日本呼吸器外科学会専門医・胸部外科学会認定医・日本呼吸器学会呼吸器専門医・Da Vinci手術コンソール医)
- 医 員: 岩本拓也 (日本外科学会・日本呼吸器外科学会・日本胸部外科学会・日本肺癌学会所属)

診療内容 (取り扱う主な疾患)

肺癌を中心とした胸部領域の良性・悪性腫瘍に対してダヴィンチ手術を中心とした低侵襲手術を提供しています。また局所進行期の肺癌患者さんに対しても、呼吸器内科・放射線治療科と連携をとって、集学的治療を提供しています。ダヴィンチ手術で重症筋無力症に対する拡大胸腺摘出術を低侵襲に行っています。内科的治療で満足のいく効果が得られない手掌多汗症に対して小さな傷で胸腔鏡視下交感神経節切除術を行っています。小児外科と連携して年少の患者さんを中心に漏斗胸に対するナス法による胸骨挙上術を行っています。膿胸・肺アスペルギルス症・多剤耐性結核・非定型抗酸菌症といった感染性肺疾患の外科治療も行っておりますので、ご連絡ください。今年度から直通連絡先を設定しました。呼吸器外科で対処できる可能性があります。ご連絡いただきますようお願いいたします。連絡先:075-311-5339

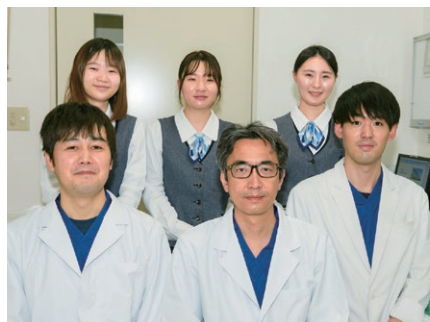
特に得意とする疾患

当科では20年以上前より、肺癌に対する低侵襲な胸腔鏡を開始して胸腔鏡手術の発展に貢献してきました。呼吸器外科学会の認定する胸腔鏡安全技術認定を受けた術者が2名在籍して安全な胸腔鏡手術を提供しています。また、安全な胸腔鏡手術の進化型として登場したロボット支援胸腔鏡手術(ダヴィンチ手術)もいち早く導入し、執刀医であるコンソール医師の認定を受けた術者が3名在籍しています。うち1名は、ロボット手術プロクターとしてロボット手術の普及に努めています。年間100症例程度の肺癌根治術と10例程度の縦隔腫瘍手術を行っていますが、そのうちのロボット支援手術の数は、2018年度28例、2019年度24例、2020年度37例2021年度52例2022年度48例と増加してきています。特に縦隔腫瘍においてはロボット手術のメリットが大きいと感じています。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

当院は地域がん診療連携拠点病院としての役割を担っており術後病理病期IA期及びIB期の患者さんは肺癌地域連携手帳を持っていたりご紹介いただいた医療機関と連携して術後経過観察をさせて頂いております。手術適応の患者さんは、診断確定させて頂いた後2週間以内に手術を受けていただけるように準備をしております。また、京都市立病院ではみぶ病診連携カンファレンスの開催や、京都医学会などで演題発表や情報交換を行い診療レベルの向上を目指しています。

脳神経外科



脳神経疾患の迅速で的確な治療を実践します
最新の科学的根拠に基づく治療を目指します

脳神経外科部長 じとう じゅんや 地藤 純哉

診療スタッフ／診療科の特色・体制

常勤医3名が在籍します。日本脳神経外科学会専門医・指導医2名、日本脳卒中学会専門医・指導医2名、日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医1名、日本神経内視鏡学会技術認定医2名です。夜間、休日も救急疾患に対応できる体制をとっています。

診療内容（取り扱う主な疾患）

脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷を中心とし、小児疾患や機能的疾患など脳神経外科領域全般を対象としています。代表的疾患として脳血管障害ではくも膜下出血、脳出血、超急性期脳梗塞など緊急対応を要する疾患から、出血の原因となる未破裂脳動脈瘤、未破裂脳動脈静脈脈奇形、硬膜動静脈瘻、また脳梗塞を引き起こす閉塞性血管病変（頸動脈狭窄など）といった待機的に予防治療を要する疾患も対象とします。脳腫瘍については神経膠芽腫、髄膜腫、下垂体腺腫、転移性脳腫瘍など腫瘍全般の診療、治療を行います。頭部外傷では急性硬膜下血腫、急性硬膜外血腫、慢性硬膜下血腫など緊急手術治療、保存的治療のいずれにも対応いたします。水頭症や顔面痙攣、三叉神経痛などの機能的疾患、また小児脳腫瘍、奇形なども診療しています。

特に得意とする疾患

当院では脳卒中センターを掲げており、多くの急性期脳血管障害を診療しています。センター内では脳神経内科と連携し、超急性期脳梗塞に対する治療（rt-PA投与や血栓回収療法）、またその他の急性脳卒中疾患に対し保存的、外科的治療、血管内治療を適宜選択し総合的な治療を迅速に行っています。また慢性期の脳卒中予防的治療においても、外科介入を行います。昨今患者さんからのニーズが高まっている血管内治療である頸部頸動脈ステント留置や全身麻酔下での脳動脈瘤コILING術を積極的に行っています。脳腫瘍では手術摘出に加え放射線治療、化学療法が可能で集約的治療を行ないます。手術に関してはナビゲーションシステムと神経モニタリングを用いて、術後QOLの維持に配慮し安全で可能な限りの摘出を図ります。悪性神経膠腫には新規の電磁場治療の実施も可能となっています。また、神経内視鏡を用いた手術も行っており、下垂体腺腫摘出術は全例神経内視鏡下に、このほか低侵襲的な内視鏡下腫瘍生検も実施しています。下垂体病変やリンパ腫では術後に内分泌内科や血液内科と協力し治療を進めることも可能です。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

昨今、患者さんからのニーズが非常に高まっている低侵襲治療としての脳血管内手術と内視鏡手術を、適応疾患に対し積極的かつ安全に行える体制を整えております。地域連携室を通じ、御紹介元および紹介先の医療機関の先生方と連携をとりながら、継続的に治療にあたらせていただきます。脳卒中患者については、脳卒中地域連携パスを用い回復期リハビリテーション病院への転院を円滑に行い、最終的に地域の先生方に「かかりつけ医」として御診療継続いただけるよう心がけております。

整形外科



脊椎や関節の痛みがあれば
京都市立病院整形外科へ

整形外科部長 かのえ ひろし
鹿江 寛

診療スタッフ／診療科の特色・体制

整形外科専任医師は8名です。主任部長は鹿江医師で専門は関節リウマチ。脊椎外科部長は竹本医師。人工関節部長は金医師の部長3名体制です。8名中6名が日本整形外科学会専門医を取得しております。

診療内容 (取り扱う主な疾患)

京都市立病院整形外科は 関節外科と脊椎外科の伝統があり、それに加えて外傷外科を行っています。

関節外科は 股関節膝関節の人工関節置換術が多く、脊椎外科は 矢状面アライメント (横から見て背中が丸くなっていないか) を重視した手術を行っています。外傷に関しては一般的なことは行っていますが、手指の再接着などの特殊なことは専門病院に依頼しております。

特に得意とする疾患

関節外科では進行した股関節や膝関節の変形性関節症に対するセメント使用の人工関節手術が多く、股関節では若年者に対して臼蓋形成術も行っています。脊椎外科では側弯症・後弯症などに対する広範囲固定など他院では治療困難な手術も積極的に行っています。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

整形外科は非常に幅広い治療分野があり、大都市での急性期病院はそれぞれある程度の専門性を持っております。それぞれの病院が得意とする分野の疾患を振り分けてご紹介くださることが、患者様にもメリットとなりますので、連携をうまくとっていきたいと思っております。病床は常時一杯な事が多く、急を要する入院などに対応できないこともありますことをお詫びいたします。

皮膚科



豊富な経験と適切な検査に基づく正確な診断
各種ガイドラインを参考にした標準治療

皮膚科部長 たけなか ひでや
竹中 秀也

診療スタッフ／診療科の特色・体制

常勤医は、竹中医師（皮膚科専門医・指導医、皮膚悪性腫瘍指導専門医）、奥沢医師（皮膚科専門医・指導医）、沢田医師（皮膚科専門医・指導医）、中村医師の4名です。他に4名の非常勤医師が外来診療を行っています。

診療内容（取り扱う主な疾患）

- アレルギー性疾患など：接触皮膚炎・アナフィラキシー・蕁麻疹などのアレルギー性疾患に対して、パッチテスト・プリックテストなどの検査により原因検索を行っています。アトピー性皮膚炎に対しては専門外来を設け、通院で軽快しない方や急に症状が悪化した方には入院治療を行っています。重症な場合には、生物学的製剤のデュピクセントを導入しています。難治性の蕁麻疹に対しては、生物学的製剤のゾレアを導入しています。
- 乾癬：近年、乾癬が肥満・高血圧・高脂血症・糖尿病などのメタボリック症候群の危険因子であることが知られてきました。治療では、内服・外用療法や光線療法に加えて、種々の生物学的製剤を導入しています。
- 皮膚潰瘍：末梢動脈疾患や糖尿病によるもの、肥満・静脈瘤などを背景にした静脈性のもの、さらにはリンパ浮腫に起因するものなど下肢の皮膚潰瘍にはさまざまな原因があり、病態に応じた指導・治療が重要です。
- 皮膚感染症：細菌・抗酸菌・真菌・ウイルスなどの皮膚感染症に対し、薬物療法・手術療法などによる治療を行っています。重症の蜂窩織炎、壊死性筋膜炎や帯状疱疹などでは入院加療を行っています。
- 皮膚腫瘍：ダーモスコピー検査（拡大鏡）、超音波検査・CT検査・PET検査などの画像検査や皮膚生検など必要に応じた適切な検査により治療方針を決めています。高齢化社会を背景に皮膚がんが増加傾向にあります。有棘細胞癌や基底細胞癌などの皮膚がんは、切除術や植皮術などの手術療法を行います。症状によって、化学療法、放射線療法、外用療法などを選択します。

特に得意とする疾患

当科では皮膚疾患全般の診療を行っています。特に、皮膚アレルギー性疾患の原因検索、入院加療の必要な重症皮膚感染症、手術療法の必要な皮膚腫瘍などの診療に力を入れています。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

当科では地域の医療機関との連携を密にして、多くの患者さんの紹介を受けており、病状が落ち着けば逆紹介を積極的に行っています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

形成外科



人間が尊厳を持って生きていくために、
生命・機能・そして整容をだいじにしたい

形成外科 ぬまじり としあき
沼尻 敏明

診療スタッフ／診療科の特色・体制

担当医師：沼尻敏明（日本形成外科学会 指導医・専門医、乳房再建用エキスパンダー／インプラント責任医師）
谷口史織（日本形成外科学会）
関本周平（日本形成外科学会）

外来日：月曜・金曜午後

手術日：水曜午前・金曜午後

診療内容（取り扱う主な疾患）

- 1、顔のけがや骨折をきれいに治療する（顔面外傷・顔面骨骨折）
- 2、皮膚腫瘍を整容的に切除する（皮膚軟部腫瘍）
- 3、がんを切除したら再建する（乳がん・頭頸部がん・皮膚がんなど）
- 4、きず・ケロイド・変形を改善する（熱傷・外傷後瘢痕・真性ケロイド・顔面神経麻痺後の変形など）
- 5、生まれつきの疾患を治療する（口唇裂・口蓋裂、合指症・多指症、眼瞼下垂、臍変形、耳変形）
- 6、その他の変形相談にのる（眼瞼下垂、難治性潰瘍など）。

ただしいれずみの除去や美容外科治療は行っておりません。

特に得意とする疾患

形成外科領域全般に診療いたしますが、とくに顔の外科を得意にしております。

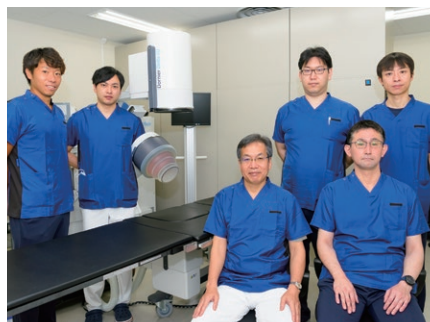
顔の骨折・すりきず・やけどなどの外傷、皮膚外表のできもの切除、口唇裂や口蓋裂・手足・へその先天変形、がん切除後の再建など、全般に対応いたします。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

外表を中心とした、きず・きずあと・先天疾患・できものなど、形成領域のことでしたら、まずはご相談ください。なるべく丁寧に診療し、患者さんと先生方にご満足いただけるよう、全力で治療いたします。

大変申し訳ございませんが、初診日当日に手術をすることは体制上むずかしいため、初診日は診察・検査・手術の日程予約までにしております。なにとぞご理解をお願い申し上げます。

泌尿器科



ダヴィンチ手術、腹腔鏡手術にレーザー手術
いずれも経験豊富な当科にお任せください

泌尿器科部長 せがわ たけひこ
清川 岳彦

診療スタッフ／診療科の特色・体制

清川 岳彦（部長：日本泌尿器科学会専門医・指導医、泌尿器腹腔鏡技術認定医、ロボット支援手術指導医、
京都大学医学部泌尿器科臨床教授）

堤尚史（副部長：日本泌尿器科学会専門医・指導医、泌尿器腹腔鏡技術認定医、ロボット支援手術認定医）

上山裕樹（医長：日本泌尿器科学会専門医・指導医、泌尿器腹腔鏡技術認定医、ロボット支援手術指導医）

松岡崇志（医長：日本泌尿器科学会専門医・指導医、泌尿器腹腔鏡技術認定医、ロボット支援手術認定医）

平松和磨（専攻医、ロボット支援手術認定医）、阿部眞也（専攻医、ロボット支援手術認定医）

と、今年度より6名体制にバージョンアップしました。4名の指導医が機動的につながり、ワンチームを形成し、
全員が腹腔鏡手術、ロボット支援手術、レーザー手術をこなす手厚い診療体制が当科の特長です。

診療内容（取り扱う主な疾患）

当院の泌尿器科は、前立腺癌、腎癌、膀胱癌を代表とする尿路生殖器癌の診断治療および前立腺肥大症、尿路結石症を代表とする泌尿器科“Common Disease”の診断治療に重点を置いています。

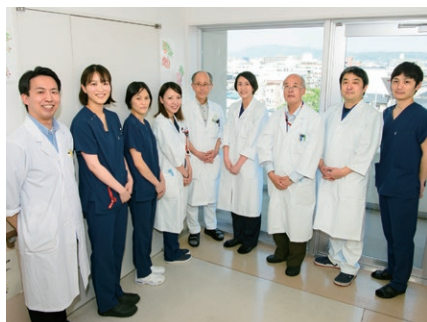
特に得意とする疾患

ダヴィンチによるロボット支援手術は、京都随一の歴史と症例数を誇っており、前立腺癌、腎癌、膀胱癌、腎盂尿管癌、いずれも得意としております。その総数は1000件を超え、2019年度より全国から手術見学を受け入れ指導する「泌尿器科ロボット支援手術 模範チーム」に認定されました。京都で唯一の認定されたチームであり、当院の手術の質が認められた証左と自負しております。今年度からは、骨盤内臓器脱のロボット支援手術も開始しました。良性疾患、悪性疾患にかかわらずロボット支援手術なら歴史ある当科へお任せください。また、前立腺肥大症、尿路結石症に対する内視鏡下レーザー治療も歴史ある得意分野の一つです。加えて、尿路結石症に対する体外衝撃波治療を外来治療として通院で行っているのも当院の大きな特長です。前立腺肥大症レーザー手術は再発が少なく、高齢患者さんに喜んでいただき、尿路結石症体外衝撃波治療は、入院時間の取れない社会的に活動的な年齢層の患者さんに喜んでいただいております。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

「当科では、かかりつけの先生方と強固なネットワークを築いており、精密検査や手術による治療の必要性を判断された時に紹介いただき、素早く対応する体制を整えています。一方、病状が落ち着いた後は、紹介いただいた先生方に、きめ細やかな診察・治療を続けていただいています。」泌尿器科外来を完全紹介・予約制に移行させた一昨年度、このように患者広報させていただきました。おかげ様で順調に機能しており、紹介患者さんにも高い評価をいただいています。引き続き紹介のほど、よろしくお願いいたします。

産婦人科



女性の全生涯に渡るケアを提供します。
24時間体制で、産婦人科救急を受け付けます。

産婦人科部長 こしば あけみ 小芝 明美

診療スタッフ／診療科の特色・体制

日本産科婦人科学会専門医6名(内5名が指導医)在籍しています。周産期、婦人科腫瘍、女性ヘルスケアの各分野の専門医が在籍し、専門性の高い医療を提供します。周産期分野では当院は地域周産期センターとしてハイリスク妊婦の受け入れを行い、NICUと協働し妊娠30週以降の分娩に対応しています。悪性腫瘍の分野では子宮頸がんでは、手術療法の他にも、放射線治療、化学療法の集学的医療を実施します。卵巣癌では組織のゲノム検査に基づいた治療が実施可能です。臨床遺伝専門医のカウンセリングも実施し、遺伝性乳がん卵巣癌症候群に対するリスク低減卵管卵巣摘出術も実施可能です。女性ヘルスケアの分野ではあらゆる月経異常に対応しています。

診療内容(取り扱う主な疾患)

産科領域では正常分娩、里帰り出産、ハイリスク妊娠(合併症妊娠・切迫早産等)の周産期管理、NIPT・新型出生前検査、胎児スクリーニング、羊水検査を実施しています。婦人科領域では子宮内膜症、子宮筋腫、子宮腺筋症、卵巣腫瘍、子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん、子宮内膜ポリープ、子宮脱、更年期障害、思春期の月経異常、月経異常(過多月経・月経困難症・無月経)、遺伝相談等に対応しています。悪性腫瘍に対しては手術療法・放射線療法・化学療法を組み合わせガイドラインに沿った治療を、良性疾患に対してはホルモン療法等を組み合わせ、手術が必要な場合には主として腹腔鏡手術や子宮鏡手術といった低侵襲手術を取り入れています。

特に得意とする疾患

子宮鏡手術では、外来で実施可能な細径子宮鏡に加え、最新のシェーバーも導入し、日帰りでの子宮内膜ポリープ切除が可能です。子宮筋腫に対しては粘膜下筋腫であれば子宮鏡下手術が可能です。良性疾患の手術は主として腹腔鏡手術で対応します。母体搬送は積極的に受け入れており、COVID19陽性患者に対する経膈分娩にも対応します。臨床遺伝専門医による遺伝カウンセリング、NIPT(新型出生前検査)の他、胎児スクリーニング外来も実施しています。悪性疾患では手術・放射線治療・化学療法による集学的治療が可能で、進行癌にも対応しています。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

いつも大変お世話になっております。総合病院として母体搬送や緊急性の高い疾患に関しては24時間の受け入れを行っておりますのでご相談いただけましたら幸いです。母体搬送や婦人科救急に関しましては、電話交換を介さない直通番号がありますので、そちらにおかけいただき、よりスムーズな連携をしていきたいと考えております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

眼科



One Teamで「治る」眼科を目指す

眼科部長 すずき とも
鈴木 智

診療スタッフ／診療科の特色・体制

令和5年度は、鈴木と南泰明(副部長)、中路進之介(医長)、三木岳(医員)、大久保寛(医員)、宮平大(専攻医)の6名体制です。鈴木は角膜・外眼部疾患、南は緑内障疾患、中路は網膜・硝子体疾患、と主な分野のエキスパートが揃っており、大学病院に準じた診療を行っています。今年度から隔月第3木曜午前の手術枠で、眼形成専門医(中山知倫)のサポートを受け、より高度な眼形成手術も可能となっています。当科で対応が困難な症例については、京都府立医科大学眼科と連携を取って対応を取ることが可能です。

診療内容(取り扱う主な疾患)

白内障、緑内障、外眼部及び角結膜疾患(感染症、ドライアイ、マイボーム腺機能不全、他)、網膜・硝子体疾患(網膜剥離、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、加齢黄斑変性、黄斑上膜、他)、眼瞼疾患(霰粒腫、眼瞼下垂、眼瞼内反、他)、ぶどう膜炎、視神経疾患、眼外傷、など多岐にわたっています。

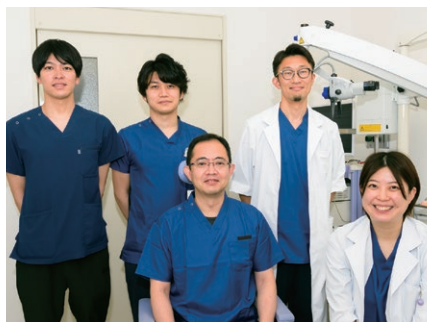
特に得意とする疾患

外眼部および角結膜疾患については、各種感染症に対する原因微生物の同定と治療、ドライアイの原因・重症度に応じた治療、マイボーム腺異常(マイボーム腺炎、マイボーム腺機能不全、霰粒腫等)およびそれに伴う眼表面上皮障害の治療、アレルギー性眼瞼角結膜疾患の治療を得意とし、難症例も含め専門的な診断・治療を行っています。白内障は、日帰り入院手術の件数を増やすと共に、全身疾患合併例、超高齢者、など難症例にも対応し、入院手術、全麻下手術も可能です。眼内レンズは、保険診療可能な新しい焦点深度拡張型眼内レンズや乱視矯正眼内レンズも採用しています。網膜・硝子体手術は、緊急度に応じて臨時手術や随時手術に対応し、加齢黄斑変性症に対する硝子体注射も行っています。緑内障に対しては、従来の手術より低侵襲な手術(マイクロフックを用いた流出路再建術など)や、手術を受けることが困難な症例(全身状態、認知症など)や点眼が多種類となりアドヒアランスが不良な症例などには、マイクロパルス毛様体光凝固などのレーザー治療を積極的に行っています。今後、初期緑内障の進行予防に有効と報告されている選択的レーザー線維柱帯形成術(SLT)というレーザー治療や、眼内ドレーンを用いた濾過手術(プリザーフローマイクロシャント)も開始する予定です。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

当科を受診したら「治る」と思っていただける眼科を目指しています。地域の先生方と緊密に連絡を取りながら、患者様の「見える」を維持するためにOne Teamで取り組ませていただきます。周術期あるいは急性期の症状が落ち着きましたら、近医での経過観察をお願いし、不調時は遠慮無くご相談いただけるような連携を取れればと思っています。どうぞ、ご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

耳鼻いんこう科



正しく診断して正しく治療することを目指しています

耳鼻いんこう科部長 とよだ けんいちろう 豊田 健一郎

診療スタッフ／診療科の特色・体制

部長 豊田健一郎 得意分野…中耳手術、甲状腺手術、頭頸部がん治療
 医長 村上怜 得意分野…鼻副鼻腔疾患、アレルギー
 医長 水田康博 得意分野…鼻副鼻腔疾患、耳鼻咽喉科頭頸部外科一般
 医員 村上太孝
 専攻医 池田葵

診療内容 (取り扱う主な疾患)

地域の中核病院として、病院機能を利用した各種検査、入院下に各種治療を行う疾患を対象にしています。

集学的治療を要する頭頸部がん(唾液腺や甲状腺を含む)、手術を要する頭頸部良性腫瘍、突発性難聴、入院を要する急性めまい、顔面神経麻痺、手術を要する中耳疾患(慢性中耳炎、中耳真珠腫など)、手術を要するアレルギー性鼻炎、慢性副鼻腔炎、嚥下障害、音声障害、入院を要する急性炎症など

主な疾患は上記の通りですが、幅広くあらゆる疾患に対応できるよう努めております。

特に得意とする疾患

- 頭頸部がん…化学療法は近年、新規薬剤が次々に適応されてきています。私たちはその効果や副作用、使用法について十分に理解し、速やかに使用できるよう努めています。放射線治療は放射線治療科と協同し、回転式強度変調放射線治療(VMAT)を多くの症例に適応しています。手術に関しましては、鏡視下咽頭悪性腫瘍手術、鏡視下喉頭悪性手術など経口的切除も行いますし、大きなものは京都府立医科大学形成外科の協力を仰ぎ、切除後の再建も当院で行っています。
- 甲状腺腫瘍、耳下腺腫瘍…特に甲状腺腫瘍は良悪を問わず手術数が多く、昨年度も66例の手術を行いました。当科全手術数の1/6にあたり、2021年度DPCデータでは京都府内で2番目に多い症例数でした。経験が蓄積されてきましたので、反回神経温存率の向上はもちろんのこと、上喉頭神経外枝(高い声を出すときに働く神経)や、副甲状腺を可能な限り温存するよう技術の向上を目指しています。
- 中耳疾患…新設された経外耳道的内視鏡下鼓室形成術の算定に関わる施設基準を満たしていますが、内視鏡、顕微鏡どちらにこだわることなく、症例ごとに適した術式を検討し手術を行っています。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

地域の先生方にはいつも多くの患者さんをご紹介いただき、感謝申し上げます。

ご紹介いただきました患者さんの検査結果や、治療経過はなるべく細やかに報告させていただくよう心がけております。地域の先生方と、ふたり主治医のつもりで診療してまいりますので、これからもよろしくお願いいたします。

歯科口腔外科



地域・人とのつながりを大切し、
誠実な医療をこころがけています。

歯科口腔外科副部長 しらい ようこ 白井 陽子

診療スタッフ／診療科の特色・体制

常勤歯科医師 3名

白井 陽子 口腔外科一般

大西ゆりあ 口腔外科一般

寺谷 雪那 口腔外科一般

非常勤歯科医師 2名（京都大学医学部附属病院 歯科口腔外科より月曜日と木曜日の午後）

歯科衛生士 4名

診療内容（取り扱う主な疾患）

- 当院は、日本口腔外科学会の准研修施設となっています。
 - 対症疾患としては、智歯周囲炎、歯性感染症、嚢胞性疾患、口腔良性腫瘍、口腔顎顔面領域の外傷、唾液腺疾患、顎関節疾患、舌痛症、口腔乾燥症、口腔粘膜疾患などです。
 - 外来通院での治療のみならず、入院での局所麻酔下や全身麻酔下の治療も行っております。
 - 循環器系疾患、糖尿病、腎疾患など全身疾患を有する患者さんや高齢の患者さんに対して、抜歯などの観血的治療を医科と連携して行っております。
 - がん治療を受けている患者さん、整形外科手術・脳卒中に対する手術・造血幹細胞移植などの治療を受けている患者さん、緩和ケアを受けている患者さんなどに対して、周術期等口腔機能管理を行っています。医科での治療が円滑にすすむように、誤嚥性肺炎・感染症・合併症の予防に努めています。
 - 呼吸器内科や耳鼻咽喉科などの診療科から依頼を受け、睡眠時無呼吸症候群の治療用口腔内装置を作製しています。
 - 当院入院中の患者さんの口腔衛生管理、糖尿病教室や母親教室などでの口腔衛生指導を行っています。
- * なお、虫歯の治療、入れ歯の作製、歯周炎の治療などの一般歯科治療は、地域の歯科医療機関の先生にお願いしております。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

地域の医療機関の先生からは、2022年度1,496名の患者さんをご紹介いただいております。
今後とも地域の歯科および医科医療機関と連携して参りたいと存じます。
病状が落ち着けば、紹介元もしくは地域の医療機関にお願いさせていただいております。
今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

放射線治療科



ひとに優しいがん治療を

放射線治療科部長 おおつ しゅうじ
大津 修二

診療スタッフ／診療科の特色・体制

放射線治療専門医2名を含む常勤医3名の他、医学物理士1名、放射線治療専門放射線技師3名を含む放射線技師6名、がん放射線療法看護認定看護師1名を含む看護師3名が在籍しており、多職種が協力して診療にあたっています。

診療内容 (取り扱う主な疾患)

外部照射装置 (リニアック) 2台と小線源治療装置 1 台を有しています。リニアックは画像誘導照射 (IGRT) や定位照射 (SRT/SRS)、強度変調放射線治療 (IMRT) に対応した高機能汎用機で、2台が同じ構成であり治療計画を共有できるため、故障時など臨機応変に対処することが可能です。小線源治療装置は京都市内では両大学と当院にしかない装置で、婦人科腫瘍を中心に威力を発揮しています。また、去勢抵抗性前立腺癌骨転移へのラジウム内用療法も行っています。

症例数が多いのは乳癌や肺癌、前立腺癌で、特に乳癌は4割を占めていますが、一般的な施設に比べ血液疾患や頭頸部癌が多い傾向にあります。また、骨髄移植を目的とした全身照射などの特殊治療や、ケロイドの術後照射といった良性疾患への照射も行っています。

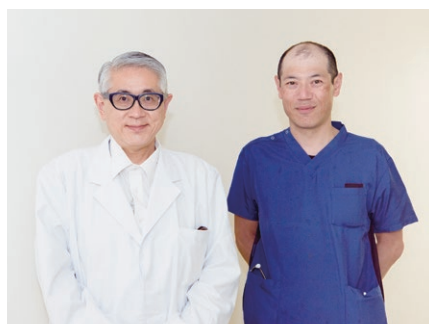
ほぼすべての治療を IGRT で行っています。また、前立腺癌の局所照射はほぼすべての症例で IMRT として行っていますが、頭頸部癌や肺癌、婦人科癌などでも IMRT への移行を進めています。

小線源治療においても、他施設に先駆けて CT/MRI による画像誘導照射や、腔内/組織内のハイブリッド照射を行ってきました。腔内照射に伴う疼痛対策にも取り組んでおり、症例により手技中の鎮静も行っています。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

放射線治療はがん治療としては比較的患者さんの負担が少なく、外来で行えることが多いのですが、若い世代の患者さんが増えるにつれ就労との両立が課題となっています。当科では症例を選んでではありますが時間外の照射も行っており、お力になれることも多いかと思います。また、単回照射も含め骨転移等に対する緩和照射にも積極的に取り組んでいます。お困りの際にはご相談いただけますと幸いです。

放射線診断科・IVR科



診療に必要なかつ十分な画像診断とIVRを、
最適のタイミングで提供する。

放射線診断科部長 藤本 良太
IVR科部長 谷掛 雅人

診療スタッフ／診療科の特色・体制

放射線診断専門医9名、放射線専門医1名、医員2名、専攻医1名と計13名のスタッフで診療しています。
各診療科からの依頼により、X線写真、X線CT、MRI、核医学検査（PET/SPECT）、USなどを行います。
夜間休日においてもオンコール体制を整え、随時対応します。

特に得意とする疾患

PETをはじめとする核医学検査、呼吸器系、消化器系、泌尿生殖器、骨軟部、乳腺の各領域を得意とする専門スタッフが在籍しています。神経系、循環器系、内分泌系の画像診断については、一部の検査につき専門診療科にお願いしているものがあります。

各種血管・非血管IVRを当科で実施していますが、脳血管、心大血管のIVRなど一部各科で実施されているものがあります。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

一般的な画像診断については対応させていただいております。一部安全面や技術的な問題により、実施できない検査や、院外からの直接のご依頼を受けかねるものがあります。詳細はご依頼の際にお確かめください。

本科の特性上、専門外来は設置していません。また、検査やIVR目的での入院もお受けしていませんので、必要に応じて相応の診療科へのご紹介をお願いいたします。

病理診断科



正確かつ迅速な病理組織診断と細胞診断
最新かつ標準的な診断基準に基づく診断

病理診断科部長 きしもと みつお
岸本 光夫

診療スタッフ／診療科の特色・体制

常勤医師3名と非常勤医師4名の計7名が病理診断にあたっています。細胞診に関しては、細胞検査士の資格を有する臨床検査技師4名（臨床検査技術科）の協力を得て診断を行っています。常勤医師2名と非常勤医師3名は、日本病理学会病理専門医、日本病理学会病理専門医研修指導医、日本臨床細胞学会細胞診専門医の資格を持ち、日常の病理診断に加えて、診療科と合同で症例カンファレンスやカンサーボードミーティングを開催する一方で、常勤の病理専攻医の指導にも注力しています。さらに、日本病理学会や日本臨床細胞学会、他の研究会などで指導的立場で貢献したり、専門書や専門雑誌の執筆を担当したりしています。

診療内容（取り扱う主な疾患）

全身のあらゆる部位から採取された、ありとあらゆる検体の病理診断、細胞診断を行うのが基本で、臨床各科と健診センターから提出されるすべての検体の処理と診断を行っています。病理診断だけでなく、臨床各科医師の臨床診断や治療方針に関する相談に対しても、誠意をもって可能な限り応じています。難解な症例や極めて稀な症例に関しては、必要であれば国内外トップレベルの専門病理医エキスパートにコンサルテーションをしています。

特に得意とする疾患

どの診療科領域の疾患に対しても、肉眼的・顕微鏡的に検体を詳細に観察して病理診断を行っています。当院の常勤・非常勤病理医が学会や研究会で積極的に活動している領域としては、消化管、血液・リンパ節、皮膚、婦人科、画像診断が挙げられます。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

病理組織診断歴のある患者を当院へ紹介くださる場合は、病理診断レポートだけでなく、ぜひとも既往のプレパラートを添えてください。既往の組織像と現在の組織像を比較することで、診断にかかる大きな情報を得られることは珍しくありません。「前医の診断を侮ることなかれ。我もまた前医なり。」を肝に銘じて診断していますので、ご理解くださいますよう、よろしくお願いします。

緩和ケア科



様々なつらさをやわらげ、その人らしく
過ごせるように支えていく医療を行います。

緩和ケア科部長 おおにし けいこ 大西 佳子

緩和ケア科担当部長 やまもと えいじ 山本 栄司

診療スタッフ／診療科の特色・体制

診療スタッフは常勤医4名（うち1名兼職）、非常勤医1名と公認心理師1名です。

緩和ケアは、重い病を抱える患者さんやご家族一人一人の身体や心などの様々なつらさをやわらげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていくケアです。外来、入院ともに患者さんやご家族が自分らしく過ごしていけるように、心も体も穏やかな状態で過ごせるように、主治医や多くのメディカルスタッフと連携し、適宜カンファレンスを行いながら、患者さんにご家族に緩和ケアを提供しています。

診療内容（取り扱う主な疾患）

がん（消化器、乳腺、呼吸器、婦人科、泌尿器などの悪性腫瘍）をはじめとする、生命を脅かす疾患をもつ患者さんとそのご家族に対して、以下のような診療とケアを外来・入院で行っています。

- 痛みをはじめとする、体のつらさに対する治療とケア
- 不安や気持ちの落ち込みなどの気持ちのつらさに対する治療とケア
- 今後の治療や療養の場の調整
- 抗がん剤や放射線治療などの治療に関連する症状への対処

一般病棟に入院中は、緩和ケアチームとしてサポートします。

緩和ケア病棟は、がんと先天性免疫不全の方が対象になります。

特に得意とする疾患

がん患者さんは様々な苦痛を抱えており、がんの診断時に 20-50%、進行がん患者全体では 70-80%の患者さんが苦痛を抱えています。痛みがあるがん患者さんに鎮痛薬（内服、点滴、貼付剤）を用いても10-30%の患者は難治性疼痛に苦しんでいる状態です。当科では薬物療法に加え、神経ブロックも必要に応じて行っています。温めると痛みが和らぐ交感神経が関与する痛みや、腕神経叢や仙骨神経叢に絡んだ難治性の神経障害性疼痛、オピオイドや鎮痛補助薬の副作用に難渋する時にも神経ブロックを考慮します。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

かんわ療法委員会主催で年に1回、外部講師を招いて緩和ケアに関する講演会を開催しておりますので、そちらも是非ご参加ください。

今後も地域の皆さまとの繋がりを大事に、紹介や連携を通じて皆さまからご指導いただくことで、それぞれの患者さんに合わせたより良い緩和医療、緩和ケアを提供していきたいと考えております。

今後とも何卒、宜しくお願い申し上げます。

救急科



“地域を支援する”断らない持続可能な
救急医療を目指して

救急科部長 くにしま さとし
國嶋 憲

診療スタッフ／診療科の特色・体制

- 平日は救急科専従医2名、初期研修医3名前後、非常勤医師でE R型初期診療を行っています。
- 夜間休日は各診療科協力のもと運営しています。
- 救急室では、搬送患者の多様な受診ニーズに備え、臨床検査技師が常駐しており、臨床救急医学会認定薬剤師、診療放射線技師をはじめ、関係職種との連携を図っています。

診療内容(取り扱う主な疾患)

2022年度の救急車受け入れ台数は6,423台、患者受け入れ件数は15,439件で、小児から高齢者まで内・外因を問わず幅広く初期診療対応しています。

「断らない持続可能な二次救急診療」を目指して、地域医療に貢献していきたいと考えています。

特に得意とする疾患

京都市南西部の中核病院として、地域の救急診療を担っています。特定の分野に偏らず、あらゆる救急患者を受け入れています。京都市立病院の優れた診療機能は、市民と地域の医療機関に開かれたものです。当科では集中治療室と連携し、24時間重症患者の受け入れ体制としています。さらに地域の診療所、病院、介護・福祉施設や在宅事業所との連携は重要と考えています。

また救急医療は大病院・救命センターだけで完結するものではなく、家族や介護者による応急手当、救急隊による処置と搬送、救急室での二次救命処置(ALS)と初期治療、入院後の集中治療、各科の専門的治療、時相に応じた各医療機関や介護福祉事業所等との関わりもあります。いずれかが欠けても患者さんの社会復帰は不可能ですし、包括的にケアしていく中での地域の医療資源の一部門と位置づけています。

また当救急室では各科・各部門の協力を仰いで、医学部学生・臨床研修医・救急救命士等多職種の教育にも取り組んでいます。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

救急搬送はもとより、それ以外でも「地域を支援する病院」「地域のE R」をモットーに、診療所、病院を問わず紹介患者を積極的に受け入れています。

救急に関するご相談は、是非京都市立病院へお問い合わせください。

麻酔科



術前診察から術後疼痛管理まで安全で
質の高い周術期医療の提供を目指します。

麻酔科部長 かくやま まさひろ
角山 正博

診療スタッフ／診療科の特色・体制

スタッフ：白神豪太郎、佐藤雅美、萬代裕子、深見紀彦、森島史織、石井真紀、野口英梨子、成田葉月、加藤宗則、
青山典子、南野園子、小原淳平、生野智美、金星幸栄、森脇扶美

診療科の特色・体制：麻酔科指導医6名、専門医6名を中心に計16名で診療にあたっています。夜間・休日も当直
体制で緊急手術に対応しており、切れ目のない麻酔管理を提供しています。

診療内容（取り扱う主な疾患）

手術室において全身麻酔、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔下の手術に対する麻酔管理とアンギオ室において
脳神経外科による全身麻酔下の血管内治療に対する麻酔管理を行なっています。

特に得意とする疾患

小児から高齢者まで様々な患者さんの麻酔管理に対応しています。

特に術後痛対策を重視し、全身麻酔においても超音波ガイド下の神経ブロックを併用したり、携帯型輸液ポン
プを用いた患者自己調節静脈内鎮痛法（iv-PCA）を利用したりすることによって術後痛の緩和に努めています。
また、麻酔科医、看護師、薬剤師、栄養士で構成されたAPS（Acute Pain Service）チームによる術後回診も実施
しています。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

手術を必要とする患者さんに安心して手術を受けていただけるよう努めています。

集中治療科



多部門・多職種と協働し
重症患者さんの早期社会復帰を支えます

集中治療科部長 しもにはら なおこ
下新原 直子

診療スタッフ／診療科の特色・体制

- 集中治療科は医師2名で、各診療科主治医とともに人工呼吸や各種特殊治療など集中治療の専門知識が必要な診療について協働し行っています。
- 日本集中治療医学会認定資格を持つ専門医により運営されており、日本集中治療医学会の専門医研修施設にも認定されています。
- 集中治療室の病床数は8床で、陰圧管理が可能な個室2床を有しており、重症感染症やプライバシーの保護にも対応しています。

診療内容 (取り扱う主な疾患)

- 入室患者の半数は予定手術の術後患者です。外科、脳神経外科、泌尿器科、整形外科などの侵襲度の高い手術の術後に加え、高齢者や合併症により全身状態悪化のリスクの高い患者さんが入室しています。
- 救急外来からは、敗血症や心不全、心筋梗塞、脳梗塞、外傷などの重症患者が入室しています。積極的な初期治療を行うことで、ADLの低下を回避し早期退院をめざすとともに、緩和的なケアを必要とする患者にも対応しています。
- 病棟急変に関しても、院内急変対策チームの一員として積極的に参加しています。

特に得意とする疾患

- 厚生労働省の定める特定集中治療室管理施設基準を満たしており、24時間医師が常駐し、看護師は2対1体制で24時間目を離すことなく看護しています。
- 臨床工学技士、薬剤師、栄養士、理学療法士が専従しており、多くの職種が協力し合ってチーム医療を提供しています。
- 人工呼吸器、血液浄化装置、体温調節装置、大動脈内バルーンパンピング、経皮的心肺補助装置などの各種機器を備えており、高度な集中治療に対応しています。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

地域医療に携わる先生方に直接かわる機会のない部門ですが、ご紹介いただいた患者さんが重篤化された場合に対応させていただくとともに、重症患者さんが早期回復され地域に帰っていくことを目指して急性期治療を担っておりますので、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

リハビリテーション科



急性期リハビリテーション、
がんリハビリテーションに力をいれています

リハビリテーション科部長 ただ ひろし 多田 弘史

診療スタッフ／診療科の特色・体制

- 理学療法部門(22名) 移動や歩行などの基本動作の獲得を目指しています。人工関節やがんの手術後訓練、脳卒中センター、ICUでの早期離床、心疾患患者のモニター下での歩行練習、血液系腫瘍の化学療法入院中訓練などを行ないます。
- 作業療法部門(6名) 日常生活動作練習(身辺動作や家事動作) 職業復帰を目指した練習指導を行ないます。高次脳機能障害者の評価・訓練も行ないます。
- 言語聴覚部門(5名) 言語障害(失語症、構音障害など)、高次脳機能障害、摂食嚥下機能障害に対し、評価・訓練を行ないます。

診療内容(取り扱う主な疾患)

- 施設基準 ・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)・廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ)・がん患者リハビリテーション料・摂食機能療法
- 診療疾患 ・運動器疾患:人工関節術後、脊椎疾患術後、外傷など
・脳血管疾患:脳卒中、脳腫瘍、パーキンソン病、多発性神経炎などの神経・筋疾患
・呼吸器疾患:慢性閉塞性肺疾患、肺炎、外科術後など
・心大血管疾患:心筋梗塞、心不全、閉塞性動脈硬化症など
・がん関連疾患:頭頸部がん、消化器がん、肺がん、乳がん、血液系腫瘍など

特に得意とする疾患

- 急性期リハビリテーションとして、脳血管疾患リハビリテーション(脳卒中急性期や神経筋疾患など)、運動器疾患リハビリテーション(整形外科術後など)、呼吸器リハビリテーション(COVID19肺炎、呼吸器疾患など)、心臓リハビリテーション(入院+集団外来リハビリテーション)などを行なっています。
- がんリハビリテーションには特に力を入れています。計画的に療法士のがん患者リハビリテーション研修をすすめており、2023年4月現在31名(在籍者の94%)が修了しています。周術期から緩和まで目的にあわせてリハビリテーション介入しています。

地域の医療機関先生方へのメッセージ

●速やかな後方連携を推進するため、診療科別カンファレンスへの参加などチーム医療に参画しています。●がんリハビリテーション実施割合(単位数)は全国でも上位に位置しています。●療法士の質の向上を図るため、科内の勉強会に加え、多くの学会研修会に参加し発表をしています。資格取得を進めており、各職能団体における認定療法士、3学会合同呼吸療法認定士、日本心臓リハビリテーション学会認定心臓リハビリテーション指導士等が多数在籍しています。

京都市立病院

診療相談電話設置のご案内 (医療機関専用)

平素より当院との連携にご配慮いただきありがとうございます。

各診療科との連携がさらに促進されるように診療相談電話を設置いたしました。医師同士の話となることで相互理解が進むことを期待しております。

直接、各診療科の担当医師へ繋がります。

平日の勤務時間内に限定させていただきますが、各科の都合で対応できない曜日や時間があることをご容赦ください。

【直通番号】 ※ PHS につながります

小児科

平日(月曜日～金曜日) 9時～17時



075-311-5312

腎臓内科

平日(月曜日～木曜日) 9時～15時



075-311-5313

脳神経内科

平日(月曜日～金曜日) 9時～17時



075-311-5359

整形外科

平日(月曜日～金曜日) 9時～17時



075-311-5314

呼吸器外科

平日(火曜日～金曜日) 9時～17時



075-311-5339

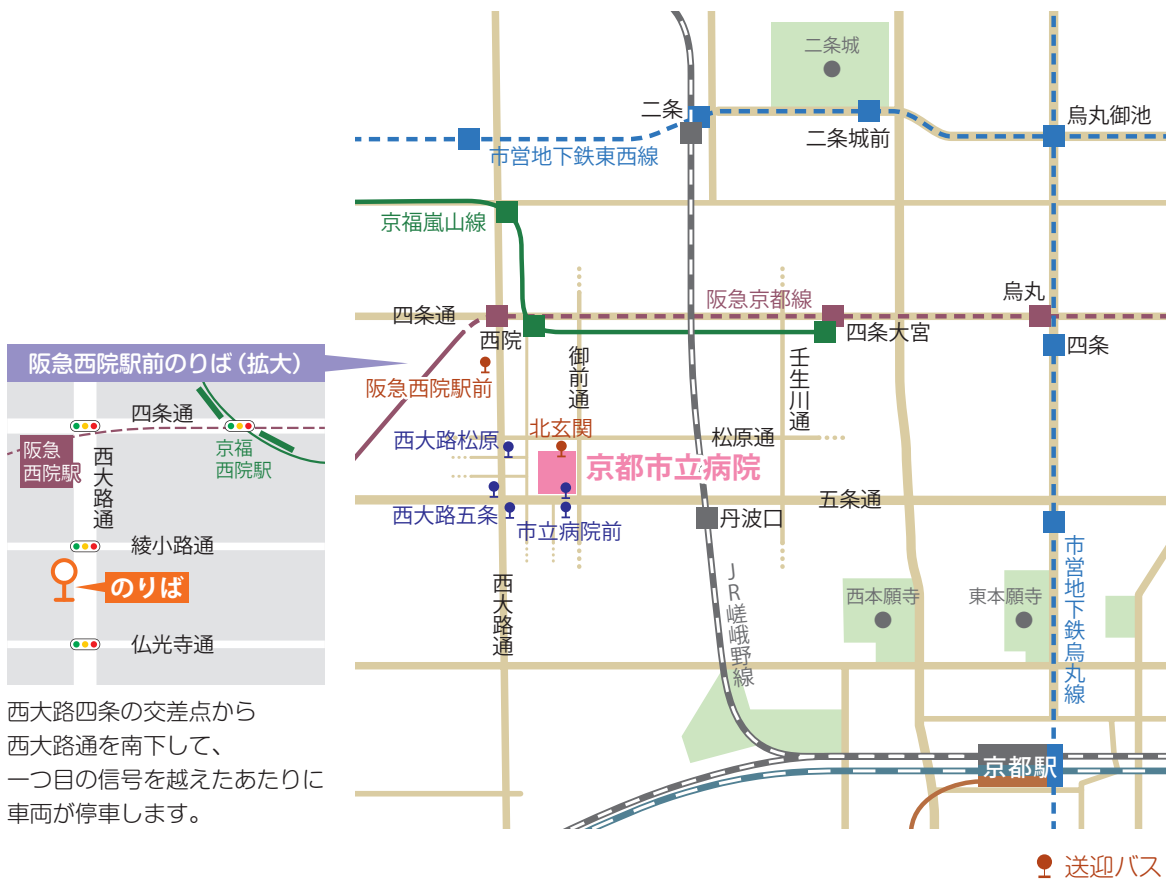
産婦人科

平日(月曜日～金曜日) 9時～17時



075-311-5356

アクセス



西大路四条の交差点から
西大路通を南下して、
一つ目の信号を越えたあたりに
車両が停車します。

公共交通機関

- JR「京都駅」から
 - 市バス 73、75号系統「市立病院前」下車すぐ
 - 京阪京都交通バス 21、21A、27号系統「市立病院前」下車すぐ
 - 京都バス 81、84系統「市立病院前」下車すぐ
- JR嵯峨野線「丹波口駅」から
西へ徒歩10分
- 地下鉄烏丸線「五条駅」から
 - 市バス 43、73、80号系統「市立病院前」下車すぐ
- 地下鉄東西線「西大路御池駅」から
 - 市バス 202、205号系統「西大路松原」又は「西大路五条」下車徒歩3分
 - 市バス 75号系統「市立病院前」下車すぐ
- 阪急電鉄／京福電鉄「西院駅」から 南へ徒歩15分

送迎バス（無料・予約不要） ※平日のみ（土日祝日・年末年始は運休）

京都市立病院 北玄関発	阪急西院駅前発
8:40～16:40 20分ごと	8:45～16:45 20分ごと

※交通事情や天候等により運行に遅れが生じる場合や運行中止となる場合があります。外来予約時刻に間に合わない等、ご迷惑をおかけすることもございますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

※折りたためる車椅子をご利用の方であれば乗車可能です。乗務員にお声がけください。

※満席の場合、次の便への乗車をお願いすることがあります。

駐車場のご利用について

時 間	1時間30分 まで	以降30分 ごと
駐車料金	400円 ※最初の1時間は無料	200円

病院をご利用される方は、最初の1時間は無料です。
外来の診察当日は、駐車料金は無料です。診察終了後、受付票を7番窓口（会計カード受付）に出される前に、2番窓口（再来受付）に受付票を提示のうえ、駐車券をお出ください。駐車券に無料化の処理をいたします。
当院の都合によりご家族の方に来院をお願いした場合は、駐車料金を無料とさせていただきますので、病棟看護師までお申し出ください。
駐車台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。
満車の場合は、入庫まで長時間お待ちいただくことがあります。

京都市立病院 診療科のご案内2023

発 行 令和5年9月

編集者 京都市立病院 患者支援センター 地域連携室

発行者 京都市立病院 院長 黒 田 啓 史

発行所 京 都 市 立 病 院
〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1-2
TEL 075-311-5311 URL <https://www.kch-org.jp/>

デザイン・印刷責任／アド・アソシエイツ株式会社



<https://www.kch-org.jp/>